新女界

明治四十四年三月一日發行

第參卷第參號要目

個人の歷史　安井哲子
恩惠の聲　海老名彈正
獨逸見聞記　吉野作造
愛の鞭　額賀生
見果てぬ夢　野口せい子
學校の撰擇　向軍治
幼時の宗教々育　井深夫人
子女教育に對する母の務　海老名みや子
若き時の奮勵　安井哲子

東京　新人社　發行

明治四十四年三月一日發行（二月二十八日印刷納本）明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第參巻第參號

社説

◉個人の歴史　安井哲子

講壇

◉恩恵の聲　海老名彈正

想苑

◉獨逸見聞記　吉野作造
◉愛の鞭　額賀生
◉見果てぬ夢　野口せい
◉朝鮮の婦人　高橋直岩
◉スノードロップ　田澤藤郎

家庭

◉學校の選擇　向軍治
◉質素なる學校　某夫人
◉行きとゞいた學校　某高等官
◉幼時の宗教々育　井深夫人
◉家庭雜感　某夫人
◉子女教育に對する母の務　海老名みや

隨感

◉若き時の奮勵　安井哲
◉思出の一節　海老名みや

交際場裡に文明の美花を開かるゝ紳士も奥さんも孃さんも香り深き千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價
七十錢
卅五錢
廿五錢
十七錢

試用見本郵券代用あれ

スワン石鹸

純白で湯水に浮き價安くて品の善いスワン石鹸は至る處の小間物、化粧品藥舗にあり　定價廿二錢

東京馬喰町四丁目
山岸三之助
電話浪花三七九三
振替口座一九九七八

スワン石鹸日本一手販賣

婦人世界

三月一日發行 六卷 第三號 一冊 五拾五錢 郵税一錢五厘 半年分郵税共一圓五錢 一年分同二圓五錢

◎嫁と姑の別居論　山脇房子　鳩山春子　棚橋絢子　目賀田夫人　川瀨富美子

◎貧乏神の話……武田講師

◎お彼岸の御馳走……弦齋夫人

▽卒業式の答辭は何のために讀むか……下田歌子

◎令孃訪問……婦人記者

◎義理堅き京都の女中……

◉人情論（愈よ出でて愈よ天下を驚かす）……村井弦齋

◎髮を美しくする法……伊賀とら

◎小兒病の豫防……加藤博士

▽柳行李を負うて出世の旅……吉村鐵之助

◎家庭衞生談……村井弦齋

◎家事經濟の執り方……嘉悅孝子

▼淀君論……坪內博士　塚原澁柿　饗庭篁村　巖谷小波　大町桂月　伊原靑々園　村田丹陵　麻生正藏　岡部文學士　小金井君子　その他

發行所 東京京橋南紺屋町 實業之日本社（郵便振替貯金口座三二六番）賣捌全國書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

村岡典嗣著

本居宣長

本居宣長先生は我邦國學史上の最も大きな人物であります。本書は本居先生に關して、眞面目なる研究を爲たもので御座います。第一篇では先生の傳を研究し、第二篇は、宣長學の研究でありまして本書の中心となつて居る處であります。宣長學の概念を與へ、其區分、著書の概觀、それから文學說、語學說、古道說、宣長學の意義、關係、成立を論じ、併せて近世の古學より契沖、眞淵との比較を爲し、宣長學の根本思想を明かにして、最後に宣長の人格を論じて、篇を結んで居ります。著者は頗る篤學の士でありまして輕浮なる傳記を編むに飽足らず、眞に學問的の研究を發表せられたのであります。近時學界に示して耻しからぬ好著と信じまして、諸姉の御一讀をれ勸めいたします。

定價壹圓五十錢　郵税十二錢

警醒社書店

東京本郷春木町二
東京銀座振五五三

羽仁もと子編輯

毎月一回
一日發行

婦人之友

四卷三號

定價 一冊 拾貳錢
半年分 六拾五錢
(郵稅とも)

▲子供部屋(口繪)……
▲家内和合の秘訣……羽仁もと子
▲どういふ學校に子供をやってよいか……
▲我家の子供部屋と子供の規律……加藤夫人
▲家事こよみ(三月)……
▲猩紅熱と痲疹……醫學博士 加藤照麿
▲痲疹を看護したる經驗……某夫人
▲三人の子供を牛乳にて哺育したる經驗……
▲客の取次方、客のもてなし方……
▲簡易なる手藝いろいろ……
▲たすしの拵へ方……
▲主婦の經驗……
▲家政問答……編者
▲育兒問答……同
▲讀者消息……

發行所 東京小石川雑司ケ谷町 振替東京壹壹六〇〇番 婦人之友社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

花も實もある三月號を見よ

婦女界

本誌の二大呼物

——（毎號掲載）——

▲夫婦論　羽仁もと子

▲合性ほど不思議なものはない▲妻の氣持と夫の氣持▲火性水性の夫婦▲氣の合はぬ同士の寄合ひ▲趣味に於て夫の機先を制せよ▲佛性の夫勝氣の妻▲造化の妙計▲男子の我儘は積年の習慣▲低き意味の合性、高き意味の合性

▲女　文學博士　三宅雄二郎

▲女と三從　▲職業問題　▲參政問題　▲家庭向と社會向

逝ける本願寺裏方を懷ふ

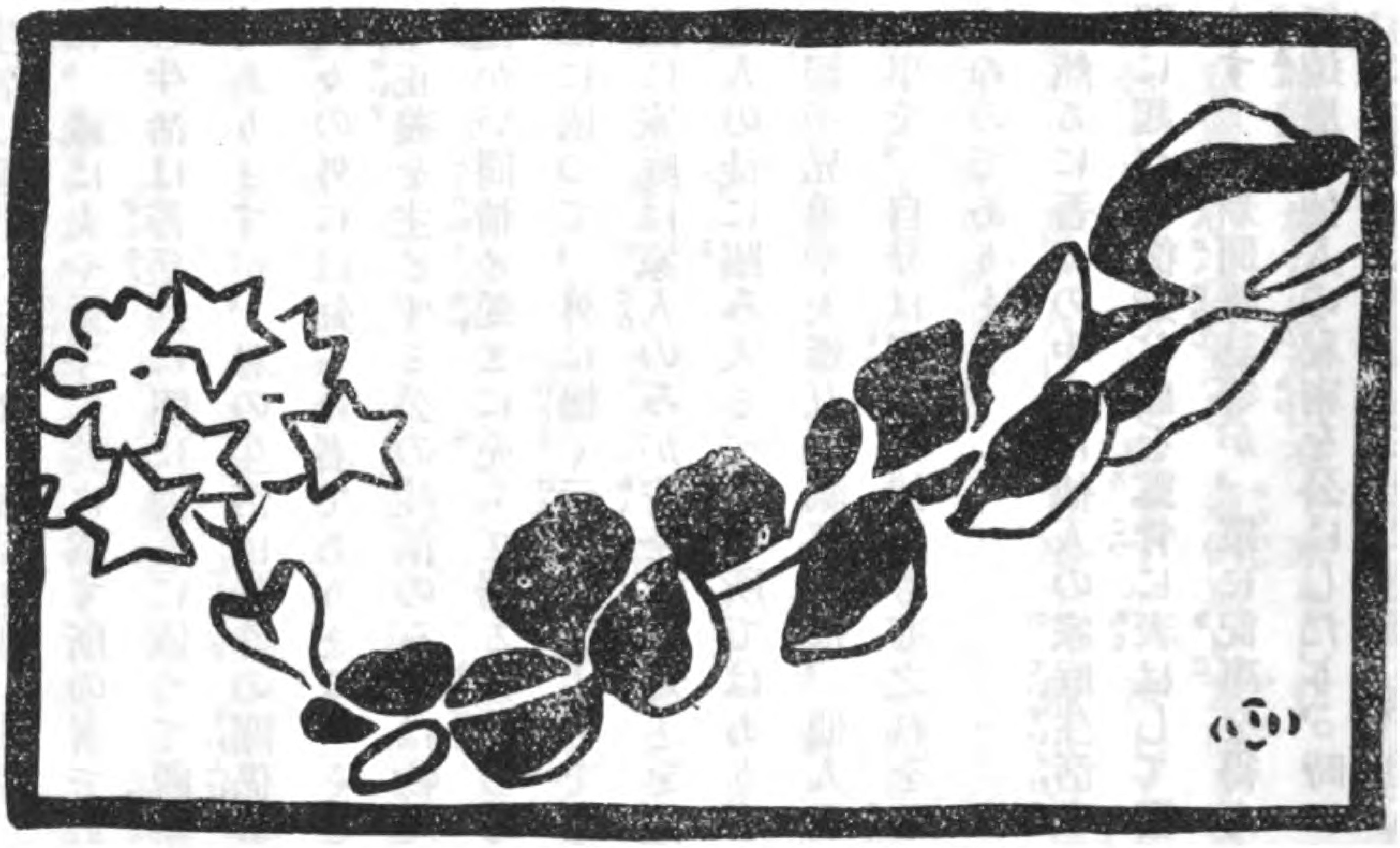
◎淡泊で情篤かりし方　公爵母堂　毛利安子
◎惜みても餘りある方　侯爵夫人　木戸壽榮子
◎丁寧にして優しき方　子爵母堂　櫻井錦子
◎德の高かりし方　男爵夫人　福島貞子
◎聞きしに優る聰明な方　棚橋絢子
◎雄々しき御氣象の方　有島幸子

◉歐米漫遊みやげ　村井吉兵衛氏夫人　村井宇野子
◉橫井小楠に事へたる盲目の忠婢　海老名彈正氏夫人　海老名みや子
◉九人の子供を斯うして育てる　櫻根醫學博士夫人　櫻根きな子
▲婦人は何のために煩悶し如何にして墮落するか　番町教會牧師　綱島佳吉　救世軍書記長官　山室軍平

◉家庭以外に於ける二つの務　代議士　田川大吉郎
◉貯金は何うして出來るか　羽仁もと子
◉私の好むイブセン劇　中村春雨
◉彫刻家の見たる女の姿　高村光太郎
◉聲の出し方の御稽古　柴田環子
◉新世帶日記　三宅やす子
◉今様訪問服のいろ〳〵　柳　子
◉天ぷらを上手に拵へる法

東京市神田區表神保町二　同文館

一冊金拾五錢（郵稅一錢五厘）　六冊金九十錢　十二冊一圓七十五錢　郵稅共前金



第參卷第參號

個人の歴史

安井哲

吾々は皆生れてから今日に至るまでの連續した一の歴史を有つて居ります。そ　て其中には賞讃せらるべき事や、非難せらるべき多くの事を含んで居ります。

或は自己の生活が國家の歴史と大關係を有つて居る程の、立派な歴史を有つて居る方もあり、又は一生殆ど罪悪の連續であるやうな、氣の毒な歴史を有つて居る人もあります。其故に吾々は生れてから死ぬるまでの吾生涯を成るべく清くし、美くしい歴史を殘す様に自己を重んじなければなりませんが、之れと同時に他人の歴史をも尊敬せねばなりません。

そこで吾々は自己の生活に就て研究致して見ますのに、男子は勿論女子でも亦純粹なる私の生活と、公の生活との二方面を有つて居ます。公の生活は多くの他人と共に社會に在つて爲す所の者で、私の

生活は家庭に在つて、或は兩親、兄弟、姉妹等と共に、或は夫や愛子と共に爲す所の者であります。公の生活は善惡共に明に他人に依つて觀察せらるゝ者でありますが、私の生活は特殊の關係ある最親しい人々の外には知らぬ者であります。そこで吾々は公平正義を主とする公の生活のみでは物足らぬので、温かい同情と愛とに充ちて居る氣兼のない家庭の生活に依つて、外に働く元氣を養ふのであります。其故に家庭は家人のみが安全と滿足とを樂しむ場所で他人の徒に踏み入るべき場所ではありません。從つて親子兄弟や夫婦互の關係等は、他人の秘密に關する事で、自分は固より他人も亦之れを尊敬せねばならぬのであります。

然るに吾々の中には他人の家庭生活や、親子夫婦間に起つた微妙な感を露骨に表はして喜ぶ者もあります。彼新聞雜誌等が、單に記事を得んがために、無遠慮に他人の秘密を公にしたり、時には何の事實もない事まで構造して世に發表し、他人に大なる迷惑をかけるといふ樣な事までもあるやうでありますが、道德上の責任は兎に角筆者の趣味の實に低い事を表白して居る者であります。甚しきは雜誌の材料に供せんが爲めに、妻として吾夫の缺點を公にする事すらも憚らぬ者があり、又は自分自身の心の秘密を耻づる所もなく發表する婦人もありますが、此に至つてはやさしく美くしい人情といふ者は全く何處へやら消失してしまつた者であります。

美くしい詞に微妙なる人情を云ひ表はして、他人に深い感情を與へる詩人の心は、實に味ふべきでありますが、何の覺悟もなく修養も足らぬために、起る心の苦悶を、何の愼みもなく具體的に他人の前に云ひ表はすのは、實に不高尚な趣味であります。況して他人に對して心の秘密を聞き出さうとし、又は夫婦間に存在する秘密を發かんとするなどは、紳士淑女の有つまじき心狀であります、而も世の風潮はかゝる不高尚な趣味を不知不識養ひ來つて、高等教育を受けた人々までも之れに釣り込まれ、何の疑も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なく吾一身上の秘密や家庭の狀態などを容易く他人に物語る樣な傾が出來て來ました。

秘密といふ言葉は、通例惡い意味を含んで居るかの如くに解せられて居ますが、決してさうではありません。吾一人に關する事で、他人の預る必要のない事は皆秘密であります。そして人の一生は多くの秘密を包んで居りますから、中々外見のみで其人を憶測する事は出來ません。殊に高尙な人は例令何等かの苦痛があり、又は滿足があつても、直に之れを敎訓と感謝とに飜譯し、自身を向上させる一階段と致しますから、輕々しく一面識もない人々に其心情を打明けて慰めを得んとは致しません。勿論かゝる人々の秘密が死後偶然社會に知られ、圖らず世人を益する事はないでもありません。

吾々は口に云ひ表はし得る明瞭な思想の外に、言葉に表はし得ぬ微妙な感情を有する事が大切で、之れは吾々の趣味を高尙にするに缺くべからざる要素であります。而して此感情は天然の美に接し、偉大なる力に感じ、又は人類の「やさしい」心情に觸れた時に養はれる者であります。之れ卽生活の餘韻とでも名づくべき者で、言語に云ひ表はし得ぬ貴重な部分であります。然るに物質的の世の中には、此美くしく「やさしい」餘韻は次第に人生から除き去られて人の一生を餘り露骨にし盡し、吾々は殆生命ある機械の樣になつてしまひます、實に殺風景な世界ではありませんか。そこで直接又は間接に世の敎育に關係を有つて居る人々、殊に女子の指導を以て自ら任ずる所の者は敎師たると新聞記者たるとを論ぜず、靑年女子をして今少し「やさしく」美くしい精神的生活を樂しまする樣に、彼等が有つて居る微妙な感情を押し潰さぬ樣に、充分の注意と保護とを與へられたい者であります。而して之れを爲すには先自己の歷史を淸くし、家庭を神聖にし、眞の平和と愛とを此中に味ふ樣に努むると同時に、他人の感情、他家の秘密等は最之れを尊敬して、單に好奇心の爲に之を發く事のない樣に充分愼しまねばなりません。

講壇

恩惠の聲

海老名彈正

△美しい心根

昔から日本には最も強い、義固い武士にも一種何とも言へぬ美しい涙が有つた。武士も自然の人である。其自然の人に自然に浮ぶ人情の涙には、同じ美しい耀やきの涙がある。昔或る藩で殺人が有つた。殺された者は他藩から遣はされた間諜であつた。故に或る一人の藩士が藩主を思ふて之を殺したのである。然るに其後是が爲めに主君に累が降り懸らんとした。

彼は終に意を決し自ら割腹して其責を負うた。主君の爲めにし又主君の爲めに竟に彼は死んだ。並み居たる其朋友親族の者には見はれざる涙が耀いた。斯る涙には價がある。同じ涙でも裡に流るゝ涙には

無量の深さがある。而して古來人間社會に於て何人の涙が一番深い又一番貴いものであらう乎。又曾て聞いた處に依れば、昔鳥取藩で或る婦人が不義を行つた、娘は忽ち手打。將に一刀降らんとする刹那、家も崩れよといふ大地震が起つた。すはといふ間に母親は其娘を掻い抱いて、家を飛び出した。而して娘は再び其父の手の下に生命を絶たれた。併し最早娘には殺さるゝとも恨は無い。母に抱かれし刹那彼女は無限の平安と喜とを得て、死は最早彼女には怖ではない。此の母の恩愛は如何に清いものであらう乎。此處には武士の固い義理以上のものが現はれて來た。

是が天然の美しい心根で、此る心事は決して偶然ではない、又一時の出來心でもなく、人の心の奥底に深く產み付けられて居る所のものが突迸つたのである。母の子を思ふ熱誠が總てを打破つて內より發する尊い親心である。是有るが爲めに子供も育ち、又社會が神の國と成ることが出來るのである。

△無限の戀慕

人間には此の如き清き親心がある。若し此の清い心が凡てを支配するなれば何も云ふことは無い。併し人間には未だ他に強い醜い惡の心がある。非常なる衝突の苦しみがある。パウロが噫われ困苦人なる哉この死の體より我を救はん者は誰ぞやと叫んで居る。又孔子の如き不善改むる能はずこれ我が憂なりと歎じて居る。東洋一の聖人にも此苦痛があつた、是は精神と肉體との戰に於て負けて居る苦痛である。此の苦痛には基督より無限の同情が來ることを知らねばならぬ。實に基督御自身にも此の邊の消息は親しく實驗せられたる所で、彼の荒野の誘惑の中には其最も大なるものが見える。世界の榮華を以て惡魔が試みたといふ中にも深い意味がある悲劇がある。恐らく斯ういふ處から同情に堪へずして我に來れ我爾曹を息ませんといふ、恩惠の聲と成つたものである。世に基督程人生の逆境に處した人はない

逆境、又逆境、頓挫又頓挫、之を普通の人から見るなれば其神は實に恐ろしい神であつた、決して天の父ではない。爾曹の靈魂と身體とを兩ながら地獄に滅す者を恐れよと基督はいはれた。眞に恐るべき神でなければならぬ。併し基督は此の恐ろしい神を父よと叫ばれた。一面には我神々々何ぞ我を捨て給ふやと呼ばはり乍ら、而も天の父よ！といはれる。是の聲が基督の限りなき慰藉の聲であつた。春爛熳の花の中に、或は秋萬山紅の佳境の中には、何人も神を父とも仰がう。併かし地震洪水大火と續き起る惨憺の中に父よと呼ばれたる基督は、如何に偉大であらう乎。而して又父と呼ばるゝ神は如何に尊いものであらう乎。

爰には神の無限の思召と基督の無限の戀慕とがピタリと出會つた。そして此處から無限の愛の泉が湧いて〳〵流れて〳〵、遂に萬國を潤ほして行く。

△崇敬と發心

聖書の中には聖書全體の意義を極めて簡單に約づめて言ひ表はしてある處が、あちらこちらに在る。例へば主の祈の如きものは吾々基督者の衷情を現はしてある。苟も基督の伴なれば天主教徒と云はずユニテリアンと云はず、總て心から此の祈を捧げることが出來る。あの父よと呼ぶ中には無限の意味が罩つて居る。又彼の「凡て勞れたる者また重きを負へる者は我に來れ我爾曹を息ません」と言ふ中に、又「わが軛は易わが荷は輕ければ也」との言に、表はされたる限り無き恩愛の聲は實に深い〳〵天地の奥底から發して來て居るものである。是が神の衷情である。是に對して吾々が爾名を崇めさせ給へと仰ぎ奉る。而して基督の御人格の中には此の二のものが一所に成つて表はされてある。一面は誠に天の父よと呼ばはりながら地上の人類を代表して神の前に立ち、又他面には我に來れよと招く御聲と成る。併し基督には倫理的道義の嚴格なる要求が有る。神は人々の行爲に由りて報ひ給ふ儼然たる神である。何處

までも罪は審判かるゝのである。茲には大能の神である、正義公道の神である、又た熱烈火の如き神である。むかし道義の武士の涙の一滴に貴とい價値のありし如く神が正義の神であるが故に疲勞たる者は我れに來れよとの御聲に更らに意味が生ずるのである。

キリスト、エスの御人格が卽ち其であつて、當時の形式の倫理道德や宗敎的形式を打破つて、神の御思召其まゝを人類に傳へられたのである。故に特に稅吏罪人の友となり醜業婦の救濟者と成り給ふた。稅吏は人の憎と擯斥の的となり、醜業婦は卑視と耻との的となり、何れも社會に容れることの出來ぬものである。されども彼等は基督に來つて無限の同情を得たのである。凡て重荷を負へる者は我に來れてふ凡てと言はるゝ處には、何の階級もない又何の人種何の民族の區別もない。或る有名な油繪にあのマグダラのマリヤが二人の男に携へられ或る善からぬ町を通つて居る、其處に基督が現はれ給ふた。豫て基督の風評を聞いて居たマリヤは忽焉として本心に立ち返へつた、そして男の手を振り切つて基督の許に走り來る所が畫いてある。此の如く忽焉として發心し己が前半の生涯を洗ひ去つて馳せ來る所は、凡て疲勞たる者重を負へる者の心の底に泌々と通ふ無限の同情があるからである。是が寧ろ神の衷情である。之を基督に聞くことを得るとは實に大なる慰藉の力である。

△無條件の容

凡て我に來れとは吾々の罪惡を無限に許し給ふ其聲である。此の處が多くの人に解らぬ。故に昔から此處に理窟を附けて法律的に解釋して來る。神は或一定の條件を設けて其に據りて吾々の罪を許し給ふのではない。故に爾の罪許されたりとは怎麼罪深い者にも直ちに發せられたる言葉である。安全にして往け、若しくは我爾曹を息ませんといふ中には神が何處までも吾々を容し給ふ、七度を七十倍せよと言

はるゝ神の恩愛慈悲である。吾々は此の聲其ものを無條件に信ずればよい、理窟を拵へて來るから眞の意味が解せられずに淺薄と成るのである。此の信仰を土臺として立つ義人が永久に生きるのである。此の神の恩愛の御聲を聞きつゝ、無條件に罪を容されつゝ、吾々が勉め勵んで行く所には、艱難にも尙ほ喜ありて、餘る嬉しさが自然と湧いて來る。又我罪を犯すとも泰き平安の惠と無限の難有さとが自ら起つて來て、堰き留めあへぬ悔恨の涙を停き父なる神の御手にて拭はるゝのである。縦令運命が我が途を塞ぎ了るとも、縦令暗黑が我を掩ひ包むとも、而も我には猶ほ清き光明と、暖かき歡喜と、麗はしき平安とあり。我は信じて生きる、而して神に懷かる。我が能力の恃むに足るか、神なき能力は謀叛の我慢されば我が良心に服する乎、神なき良心は朝に夕に迫り狂うて我を攻めんのみ。我が信ずべき救は此の恩惠の聲の外にない。神の御聲神の表情其ものを信ずる外に途はない。一向專心に脇目も振らずに信仰する時に、其處に又新なる天地が展けて來る。オーゴスチンもパウロもルーテルも皆此の信仰に由りて生れ變つた。假令如何に精神的に失敗した者と雖も此の恩愛の聲を聞かば、而して之を信せば神の子の嬉しさを自覺することが出來る。

△神心と親心

今最後に附け加へて置きたいことは、此る基督の御聲は單に歷史の上とか或は聖書の上にのみでなく現に吾々の裡にも日々經驗して居る處のものである。即ち人の親と成る者が在るではない乎。親といふものは如何に大なる罪をも、其小供の身の爲とならば何時でも、直ぐ其場でも無條件で容してやるではない乎。恁麽事はとても理窟から來る倫理學上では知ることは出來ぬ。凡てを超越する所の又一番奧深い所の、無條件で許すといふ義理でもなく人情でもなく、一切を貫く親心は何と言ひ表はして善いか知れぬ。神の心を心とする親心には、總ての人の捨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て去つた、無明の放蕩兒も、一度其故郷に立ち歸へれば無二の愛兒、前非を悔ゆる穢れし身も父の腕に打ち縋らば、爾の罪容されたりとの聲を聞く。基督曰く、爾曹惡き者なるに猶ほ其子に善き物を與ふるを知る、況して天に在す爾曹の父は求むる者に善き物を與へざらんやと、神が我が基督に依りて吾等を呼び給ふ聲は、吾々の一番奥底に徹するもので、而して此を信ずる信仰が實に吾々の生命である。此の信仰から正義も靈能も平安も氣力も湧いて來るのである。「蓋は我が軛は易く我が荷は輕ければなり」。人生の坂路は何人の上にも急峻である。されど吾々はキリストに到つて息ふことが出來る。而して我が短かき人生を淸く尊く送るを得て、永遠の生命に至ることを得るは、一に此の信仰を得ると得ざるとに在る。誰か敢て自ら亡ぶ愚を取らん乎。

湯台叢話（其七）

谷津直秀

（二七）　單身强に満されて當時腐敗せるフローレンス全市を聖化した傑僧サボナローラは、ローマ法王の旨に反對した結果、遂にヒヤアツ、デラ、シニョリヤと云ふ同市の中央の廣場で、公衆の前で燒き殺されたのは一四九八年五月二十三日でした。其より餘程の間毎年同日フイチリータと稱へ、薔薇の花びらをまき散らしました其が永く中絶していました所が、去年は之を復興して此殉教者の英魂を弔ふたそうです。今年よりも續いて毎年此祭を行ふのです銅像などによまて一種の床しさがあります。

（二八）　去年ベルリン大學の百年祭に、ドイツ皇帝の一場の演說がありました。其主意は同大學の事業とした科學研究館を建て費用の半分は、皇室から半分は人民からで、主として生理化學其より純粹の物理化學などをも研究する所であるそうで、其顧問は神學教授ハーナックです。去年總長となつたからでもありましょうが、古い神學教授の夢にも見ない活動です。

（二九）　新英洲の中でも中々古風を存しているセーレムと云ふ市の稅關はホーソーンが役人として働いていた所で、スカーレット、レターの序で當時の有様がわかります、そこにホーソーンの使用した砂壜がある。此は吸紙の行はれる前にインキを乾す爲に、紙の上に砂をまいて其をまた壜に入れたのです。南イタリヤの小い村のパチパーリヤと云ふ所を旅行しました時、そこで停車場の役人が往來の土を書きたての手紙の上に振りかけているのを見ました。もとは隨分廣く行はれた習慣と見へます。

（三〇）　シエークスピヤの作で有名なコメーチ、エ、ジユリエッタの塚はベーロナのフランシスカン派の寺にあります。又同市にジユリエッタの兩親の家だと案内者の云ふ古い家がありましたが、四年前に全燒しました。眞物でないとしても五百年程も前の家でしたから殘念なことでした、本邦でも古き家の保存に注意したいことです。

想苑

獨逸見聞錄

吉野作造

獨逸のクリスマス

獨逸では、クリスマスを教會でのみならず、各家庭でも之を祝ふ。クリスマスが國民的祝祭として最も盛に持囃やさるゝのは、寧ろ其家庭にて祝はるゝ方面に在るやうだ。クリスマスの祝ひ方は、どうも獨逸の方が面白いやうだ。比較して考て見ると、教會でのみ祝ふ日本式は餘りに殺風景である。

今次のクリスマスは、ウエストファアリアの小都シィウエルム市のハーネ君の家で祝つた。ハーネ君はハイデルベルグで神學及び政治學を學んでゐる學生で基督教青年會の役員をしてゐる關係から知り合ひになつた。此冬の休みに招待されて君の故郷を訪うたのである。十九日に往つて二十七日まで厄介になつたから、具さにクリスマスの祝を見ることが出來たのである。

クリスマスは一般に二十五、二十六の兩日に亘つて祝はるゝので、二日間は何處も彼處も休むことになつて居る。之は勿論新教徒たると舊教徒たるとを問はぬが、所在の猶太人までが自ら仕事を休むやうになつて居るさうである。シイウエルムでは、教會では二十五日の午後と二十六日の午前及夜と三度集

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りがあつたが、家庭では先づ以て二十五日の早朝に祝はれた。此祝は家の一番奇麗な部屋で行はれる。室の一隅には所謂「キリストの木」が飾られる。部屋の眞中には机が置かれてあつて、此上に銘々の贈物が飾り積まれてある。「クリストの木」は日本の教會で飾ると同じやうなもので、主として杉の木に似たタンネンを用ふ。タンネンを日本の字書には樅と譯してあるが、少し異うやうだ。三四日前から買ひ込んで、之に薄硝子で作つたピカ〳〵する球や其他色々美しい物をブラ下げる所々に蠟燭立をはめ込んで火を燃すやうにする。之は後で同地の牧師に聞いた話だが、本來は此木に綿で拵へた白い物をふりかけて、雪で眞白になつたやうにするのが例で、近頃のやうに赤い球や青い球などを飾るのは變則であるとの事だ。兎に角非常に美しく飾る。ハーネ君の宅では六尺ばかりの枝の茂つたのを買ひ込んで三四日前から大騒をして飾りつけをした。日本の教會でやるやうに贈物を枝にブラ下げることはせぬ。之は凡て机の上に並べる。此贈物はまた大した物で之れがつまりクリスマス祝日といふものに國民を狂喜せしむる主眼點かも知れぬ。苟くも一家内に在る者には銘々皆贈物をする。而して何が自分に送らるゝかは一向本人に知らさない事になつて居る。英語では

サンタクロースが贈物を持つて來て呉れるといふが獨逸ではクリスト、ギントセン（基督の子供）が持つて來ると云ふ。ソレで買物に行くことを「基督の子供」に行くと云ふ。クリスマスの數日前は、此の「基督の子供」の往來頗る頻繁を極める。丁度日本の歳の市のやうである。僕もハーネ君と其姉君の御供をして「基督の子供」に行つて見た。三人である洋物屋に這入つて、十二才になる妹への洋傘と、父上への帽子を買つた。夫から或る金物屋に這入つたが、其妹姉君はハーネ君にお前は這入つては不可ないと云はれた。僕だけ御伴をしたが、ハーネ君のナイフを買ふのであつた。何を買つたといふことを秘密にせよと命令を受けた。今度は書店に這入つたが、僕への贈物を買ふのだと見へて、僕が入口の外に立たされた御兩親も一所若くは別々に屢出てゝ色々の物を買つて來られる。買つた物は銘々鍵のかゝつた戸棚の中に入れる。十二になる妹は小供だけに見たがつて、「基督の子供」が歸つて來る毎に後を追ひ廻す。鍵のかゝつた戸棚の戸をいぢくつて、何とかして見やうとする。一日に二度も三度も「基督の子供」が來るので、妹は今度は何だ〳〵と頻りに心配する。實に樂しい心配である。二十四日の朝までは僕も一緒になつて「クリストの木」の飾付などに手傳つたが、其午後よりは贈物の飾り付けをやると云ふので、其室に入ることを嚴禁された。ハーネ君と姉君だけが這入つて色々飾られた。ハーネ君と姉君とは御互に贈物を堅く包裝して見へぬやうにしてあつたと後で聞いた。妹さんは切りに見たがつて戸をたゝいたりなどする。戸は常に鍵でしめられて居る。贈らるゝ本人に物を見せないといふのが中々樂みなので、子供などのある家庭では一段と樂みなのである。序に申すが、イプセンのノラを讀まれた方は御承知でせうがノラがクリスマの贈物を買つて來て、之は誰のため之はかれのためと見せると、御亭主のロバートが其處にある包みは何かと尋ねると、之はあなた今見てはいけませんとノラの答ふる句がある。シテ見ると

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本人に見せぬと云ふ風は、北歐にも一般に行はれて居る風と見える。佛國では斯う云ふ風はない。

二十五日の朝は、薄暗い中から起され、七時までに食堂に來いと云はれた。獨乙の冬は日本より日が短い。當時は八時半頃になつて漸く明るくなるので七時といふと日本の五時に相當する。七時まで食堂に降りて見ると、ハーネ君始め、兩親、姉君、女中、皆サツパリとした身仕度をして待つて居られる。妹君までが眠い顔もせずピンとして居られる。食堂は飾り付けのしてある部屋の隣である。人が揃つたと云ふので姉君がピアノに向つて降誕祭の歌を彈せられる。スルト一同皆聲を合せてうたふ。一曲濟むと又別の歌を謠つた。二三曲濟んでから始めて祝の部屋に這入るものと見へる。妹君は早く見たいので、皆の歌の調子が遲いとておこる。歌の終るを待ちかねて戸にヒツタリとからだを付けて、妙な身構をするので皆が笑ふ。笑つた爲に歌がト切れるので又怒る。此間に僕は云ふに云はれぬ快味を感じた。やがて歌が終つたら眞つ先に妹さんが驅け込み、次に客たる僕、夫からハーネ君、姉君、御兩親、女中皆這入つて來た。見ると既に「キリストの木」に蠟燭が燈されストーブで部屋が氣持よく溫つてある。此處は誰れの席、彼は誰れの席と與へられた席に就て見ると、贈物が山の如く積んである。大きな皿に菓子果物を堆く積んだのが銘々に一皿宛、外に夫々御互からの贈物が重ねられてある。一つには此一兩月買ふべき物を買はずに延して置く譯でもあらうが、其澤山なのには驚いた。女中などは衣物三枚に小物數點を貰ひ偶々居候に來た僕に迄、ロゼガーの「永への光」一といふ大冊の小説と、手袋、襟飾、手巾、其他數點を贈られた。家族相互のは推して知るべきである。大抵衣物と衣物地反物は贈らるゝが、此外一つ感心したのは、此家の主人は餘り教育のある又餘り有福な人とも見えぬのに、其息子にルーテル全集八冊ものを買つてやつた事である。之を以て見ても獨乙の健全なる中等社會が、如何に宗教的であるかゞ察せらるゝ

「クリストの木」に火を燈して赤青種々の硝子球に映ずるのは、非常に奇麗だ。やがて又讃美歌をうたつて一旦此席を退き、食堂で朝の珈琲を一同打ち揃つて呑む。兎角する中に向ひの内の娘と息子といふが訪ねて來た。直ぐ祝の部屋に入れて銘々の贈物を見せる。其中に又二三人の知り合が來た。日本で三月三日の雛祭りを御互に見せたり見たりして廻り歩く様に、知り人の家を廻つて見て歩くものと見へる。僕も亦ハーネ君姉妹に連れられて三四軒見て歩いたが、小さな子供のある家では殊に賑やかで丸で子供博覽會へでも往つたやうだ。一寸した家でも二三百圓は使ふだらうと思はれる。夫から又歸つて、日中は食つたり呑んだり歌つたり、馬鹿々々しい程太平樂を盡す。其割合に訪問は少い。水入らずに家族だけで十分歡を盡す風らしい。

午後四時から教會で禮拜があると云ふから往つて見た。二十五日は丁度日曜日であつたに拘らず朝の集りはなかつた。クリスマスだから特別の事もあるかと思つたら、常と少しも變るところがなかつた。即ち歌、祈禱、歌、説教、歌、祝禱といふ順序に紋切形に運んで散會した。祭壇の横に一丈ばかりの「クリストの木」が立てられて、之に蠟燭が美しく燈されたのと、説教の題目がクリスマスに關係したのとがふだんと變る點であつた。出席者はふだんに比して幾らか少かつたと云ふ。雪の降つた爲め斗りではない。

二十六日も朝から家族一同祝の室で打ち興ずる室の中は贈物も何も前日の儘にして置く。飲み且つ食ひ、又歌ひ且つ笑ふ。朝十時から説教があるとて老人連は出掛けたが、若い者は留守に殘つた。夜は「子供の禮拜」があるといふので往つて見た。日曜學校の生徒が七百人もあるといふので子供で一杯だ。樓上には兩親其他の家族が見へて居る。之が丁度日本のクリスマスの一部分に當る。暗誦と唱歌と交々行はれた。之に就て僕の感じた事は、第一は日本では丁度日曜學校の成績發表のやうな積りでやつて居る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が當地では何處までも名の如く「子供の禮拜」としてやつて居ることである。第二は子供ながら音樂が非常に旨いことである。尤も之に專門の音樂家が熱心に來て平素敎へて與れたのださうだけれども夫としても實に旨いものだと思つた。第三には順序の運びが氣持よく迅速で、少しもゴタツカぬことである。例へば先番の歌がうたひ了らぬ內に、次の暗誦の組がチヤンと壇上に來て居るといふ風に、息も付けぬ程運びが早い。之に比べると日本のは間が拔けてると思ふ。終りに牧師の簡單なる說敎があつて終つた。六時より始つて終つたのは八時前、二時間に充たぬ歸る時子供は本一冊宛の贈物を貰つたが、之れは銘々其組の受持敎師が渡して居つた。

敎會では之れ丈けである。宅ではまた歸つて打ち興ずる。二日目の夜は親戚知己の人も來て非常に面白く興じた。

僕の見たクリスマスはザツト斯んな風であつたが獨乙では凡ての家が、猶太人や社會黨、(社會黨は無宗敎主義を明に標榜して居る）でない限り、皆斯んな風にして祝ふのである。此點に於ては新敎も舊敎も全く同一である。故に獨乙に於ける耶蘇敎の子弟に取つては、クリスマス程樂しいものはない。如何に遠くに居てもクリスマスには乾度故鄉に歸つて來る。學生でクリスマスに故鄉に歸らぬ者は無い。兵隊さんですらクリスマスには一週間の暇を貰つて鄉里に歸ることを許される。クリスマスは乾度鄉里に於て祝ふべきものと極つて居るやうである。支那人は正月は乾度鄉里にて祝ふべきものに極め、事情許す限りは正月には皆鄉黨に歸へるのを見て、曾て頗る面白いと感じたことがあつたが、獨乙のクリスマスは正に支那の正月である。支那人の如き囘古的慕鄉的人民には、每年一囘鄉里に歸るといふ習慣は別に大した意味もないけれども、獨乙などに於ては每年一囘少くとも父母の膝下に歸りて純潔なる家庭の樂に與るといふ習慣は、青年の品性の上に至大の影響あるを疑はぬ。家庭の悅樂と父母の恩愛を忘る

ゝ時程、青年の品性に取つて危險なるものは無い。毎年少くとも一回の歸省が無上の樂として待ち焦るるといふ獨乙のクリスマスは、家庭と青年との關係を結びつけるといふ點から見ても一つ眞似て見たいやうの氣がする。況んや其上に云ふに言はれぬ趣味あるに於てをや。僕は歸つたら斯んな風にして家内中を騒がして見たいと、今から空想を廻らして居る。

獨逸の新年

新年は一向つまらない。シイウエルム市には二十六日まで厄介になり、二十七日よりライン河沿岸の諸都市を見物して二十九日バイエルン國の田舍の村に來り、茲處で新年を迎へたのであるが、平日と異ることが無かつた。始めの僕の考では、新教徒の家庭でクリスマスを祝ひ、舊教徒の家庭(右の田舍村は全村悉くカトリックである)で新年を迎ふ、一寸對照が面白いと云ふ考であつたが、此豫期は全く外れた。元日は丁度日曜日に當つたので、朝例の通り禮

拜があるので教會にて往つ見た。說教の中に年の變つた事につき一二言あつたが、大體はクリスマス季節としての說教であつた。教會から歸る時、人々は「新年御目出度う」(Prosit Neujahr)と言ひ交はして居つた。之れ丈けが新年らしい。外に何も變つたことは無い。小學校はクリスマスの前後に休んだきり、二日には授業があつた。丁度日曜日に當つてゐなかつたら、元日も授業があつた筈なのだ。最も都會では、大晦日の夜は寢ないで、十二時の鐘を聞く。愈鐘の打出しをきくと、人々町に飛び出して、誰彼の差別なく遇ふ人毎に御目出度うを叫びつゝ、騒ぎ廻り、三四時までは大變に賑なさうだ。都會とてもツマリは之れだけの話だ。田舍では大晦の日も例の如く働き、例の如く寢ね、年が變つても生活には何の變化も認めぬ。餘りアッサリし過ぎてゐるので、却て面喰つて仕舞つた。

三十年前の日本端書

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

シイウエルム市のハーネ君の父君は、多年各國の郵便切手や端書を集めて居られたといふとで、僕も多少趣味を有つて居るところから、其アルバムの一覽を乞ふた。日本のも大部集めて居られる。昔の證券印紙や煙草の印紙などまで郵便切手だと思つて貼りつけてある。中に頗る僕の注意を引いたのでは二葉の端書である。一枚は十五年八月三十一日の消印で大阪の吉野八助といふ人より、兵庫宮内町の片野喜助といふ人へやつた商用の手紙で、内容は餘り略筆なので能く讀めなかつた。他の一は同じく十五年六月十二日の消印で、北區北野新地一丁目丹羽久吉様大す屋御内お屋壽殿臼屋町遠山榮三とある。大阪市内だから五厘の端書である。文句は「一寸申入候然ば今日少し私方に取込の義出來候間明朝にも宜敷候間一寸御ひまをもらいて歸る樣申入候云々」とある。三十年前の端書が、異境の人のアルバムの中に丁寧に保存され、今日圖らず僕の目にとまつたといふ事に、僕は非常の趣味を感じた。此端書は如何云ふ次第で、如何いふ人手を經て、ハーネ君の手許に這入つたらうか。前記片野氏吉野氏乃至遠山氏おやす氏など今も健在で繁昌して居るだらうか、など想像は想像を産み、右の諸氏もこの端書を僕が獨乙で見たと云ふ事を聞いたら、如何んな感じをするだらうかなど無限の聯想に耽つた。

獨逸の婦人

獨逸の婦人の能く働くには感服した。僕は初め西洋の婦人は日本の婦人の樣に家庭の事に專念なるものであるまいと想像して居つたが、來て見ると最も家庭的なる日本婦人と雖も、普通の獨乙婦人には及ばないといふことを發見した。

中流の家庭では女中を使はない。大學教授位の家庭でも、女中は精々二人位のものだ。年頃の娘があると、此娘が御勝手を一手に引き受けて働く。十歲前後の娘でも毎朝雑巾掛で廊下を掃除する。夫が濟むと針仕事をする。呑氣に遊んで居るのは見た事は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ない。家内中集つて雑談に笑ひ興ずる事は珍らしくないが、其時でも手に針を持つて靴下の穴繕ひか何かをして居る。

最も近頃は、段々婦人の間にもハイカラな運動が始つて、家を外に飛び廻るものも多くなつたさうだ。所謂婦人運動も可なり盛である。近頃新聞の廣告で見ると、友人上杉法學博士が「婦人問題」と題する一書を公にしたさうだが、同君は獨乙留學中熱心に同問題を研究し、婦人運動の熱心家なるエリネック教授夫人に親炙して居られたのみならず、婦人問題に關する殆んどあらゆる著書を持つて歸られたから、定めし獨乙の婦人運動に關しても能く之を明にして居られると思ふ。之は餘談に走つたが、婦人運動は斯く盛になりつゝあるに拘らず、猶一般の婦人社會からは歡迎されて居ないやうだ。去年の秋、獨乙皇帝は「我國の婦人は宜しく良妻賢母を以て任じ、家庭の爲めに犧牲となるの覺悟あるを要す」といふやうな演說をして一寸物議を釀したが、之は獨乙皇帝の演說なるが故に、社會黨や何かゞ故らに、反對を試みたので、多數の人の腹では、之れを是認して居つたやうだ。一つの例を擧ぐるに、獨乙では小學校の教師に婦人が頗る多い。併し結婚すると教師を勤めることは出來ぬ。人の妻たる身分と、公の職務とは兩立しない事になつて居る。進んで居ると云ふべきか後れて居ると云ふべきか、兎に角日本とは違ふ。然るに婦人運動の側では、之を不當の制限なりとして、斯かる規則の廢止を迫る、之に就て一般の婦人社會では現行の規則を是認し、婦人運動の主張に同情しないやうな傾向が見える。中には、公の職務のみならず、妻君が主人と獨立して特殊の職業を營むもの(齒醫者など多し)に對してすら、非難を加へるものがある。シテ見ると獨逸婦人の理想が、今猶如何に家庭的であるかゞ想像される。

近頃女の大學生が頗る殖えた。十年前には全國通じて百人内外であつたが、現今は數千人に達し、ハイデルベルグの大學にだけでも百五十六十人は居る

僕の宿の主婦は曾て、五六年前は女大學生といふものは殆んど目に付かなかつたが、近頃は變なイヤな風をした婦人書生が頗る多くなつたと、皮肉を云つた事がある。教育のない老人の言だけれども、要するに此現象にすら同情がない。中には、金持の娘で容色の悪い娘さん達が大學生になるのだと皮肉を云ふ者もある。成程容色の美しい人は少いやうだ。縁の遠い年たけた老嬢が、教師の資格を得るために大學に來るのだと云ふ人もある。之も中ばは本當であるらしい。要するに獨乙では、婦人の社會に出て活動したり、高尚な教育を男子と共に受くると云ふやうなことを以て、喜ぶべきことゝは認めて居ない。

序に云ふが、ハイデルベルグ大學の規則には、特に女子に限り、獨逸帝國内の中學卒業者のみを入學せしむるといふ一ケ條がある。以前は男子と同じく斯んな制限が無かつたさうだが、一時露西亞（主として）の若い婦人が怪しげな中學卒業證書を持參して、醜業の目的を以て多數やつて來て、著しく學生全般の風紀を紊した事があるので、其以來獨乙の學校を出た者に限る事になつたさうだ。男女とも露西亞の學生は一番品行が悪いさうで下宿屋などでも決して歡迎せられない。

獨乙では女中の相場は最低が一年百八十馬克（約九十圓）で、少しよいのになると三百五十馬克四百馬克するさうだ。之では澤山使へぬ譯である。日本でも女中の相場が高くなつて困る事と思つて居たが其結果主婦や娘が自分で働く獨乙のやうな風になるなら、却て喜ぶべき現象かも知れない。獨乙の女中も働くことは素敵で日本の女中の三人に匹敵するだらう。何んな事でも柔順に働く。日本の女中のやうなノラクラした者ではない。夫でも斯んな事を云ふ人がある。近頃は女中も段々使ひ悪くなつた。二週間毎に一回日曜の午後に暇を呉れなければならぬ事に法律で定つて居るが、其上に夜仕事が濟むと出かけたがり、日中でも何か用を作つて外出したがる。

（以下次號）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛の鞭

額賀生

一

「かのすけ」は自然の子である。桑の繁つてゐる畑や、蛙の子が心地よげに小さな尾を搖かして游いでゐる水溫む畔は彼の天地である。大聲を揚げて叫んでも誰も何ともいふものもなければ、棒切を振り尨犬を連れて野を驅け廻つても叱る者もない。西の方の水平線のところに幽かに見ゆる富士の頂きが夕陽に照される姿はいつも彼の魂を奪ふ最も麗はしい景色であつた。また神閑た鹿島神社の杉の森は彼の心を聖らかにするものであつた。

二

或る冬の日のことであつた「かのすけ」は學校から歸つてお辨當の明き箱と本の鞄とを我家の廊下に放り出した儘、例の通り外へ飛び出して裏の池で氷などを取つて、手を薑のやうに眞赤にして遊んでゐた。其うち近所の朋輩も來て、今度は鬼ごつこなどをした。やがて一人の年嵩な小供が「芝生へ火を點けて暖たまらう、さうすると今に茅花がよく生ゐるからねい」と云ひ出した。するとみんな、それ面白からんと贊成した。其中の誰かゞマッチを持つ來る。枯草を集めてそれに火を點ける。冬枯の芝生は忽ちパッと燃ゐ上る。子供等は思ひ〱に手を擴げてゐる。火が餘り遠くへ燃ゐて來れば、棒でたゝいて消す。暫く經つて小供等は一人去り、二人去り果ては大抵みんな己が家を指して歸つて行つてしまつた。取殘されたのは「かのすけ」と僅かの燃ゐさしの火とのみである。「かのすけ」はその火の消ゐるのを待つて、そこを立去つた。丁度そこへ尨犬が來たので、それを相手に其邊を走り廻つてゐた。さうすると俄かに火事だ！火事だ！といふ騷が始まつた。手桶を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

提げて駈て來る女、長柄の柄杓を擔いで飛んでくる男大勢現場へ群つた。「かのすけ」も尨犬を乘てゝ走つて來た。さうして始めて先程消えたと思つた火がいくらか殘つてゐて、それが筑波颪の強い風に吹き立てられて、再び燃え上つたのだなといふことを覺つた。火はいま丁度赤い舌を出して垣根から隣家の軒を舐めやうとしてゐる所であつた。しかし幸に早く人が見付たのと晝であつたのとの爲に、大事に至らずして消止めることが出來た。「かのすけ」は最後までそこに立つて見て居た。人に尋ねられて彼は他の子供等と芝生を燃して遊んだことをわるびれもせず答へた。ところが之を聞いた彼の母は有無を曰はず十歳の子を小脇に抱いて家の方へ行つた。家の側には小川が流れてゐる。其所へ來ると母は、「此悪戯者奴がといひながら「かのすけ」を氷のある小川へ投入れた。「かのすけ」は泣きながら氷面に顏を出した。もがきながら陸へ上らうとすると、母は又、「他人の家のものに迷惑をかけて濟まぬことである」といへながら再び水に沈めた。「かのすけ」の小さき胸のうちは火のやうに熱かつた。いつそのこと死んでもよいと觀念して、母のするが儘に任せるより外はなかつた。其のうちに近隣の人が走せ付けてきて只管謝罪つてくれた。母はぬれ鼠のやうな自分の子を其人に渡した。其人は自宅へ連れて行つて藁火を焚いて溫めてくれた。姉は乾いた衣服をそつと持つて來て着せてくれた。夜になつてから兄が迎ひに來てやつと家へ歸ることが出來た。其時には家族うち揃ふて圓座を作つて晩餐が始まつてゐた。「かのすけ」も其列に加はつた。又怒られやしないかと小さくなつてゐたけれども、母はもう何とも言はずに、御飯などつけてくれた。父もお肴の皿を膳の上へのせてくれた。

三

多分其翌年の夏のことであつた。「かのすけ」は或家の少年と一緒に村を流れてゐる河に小船を浮べて

漕廻つて遊んでゐた。すると其所へ通運丸といふ蒸滊船がやつて來た。「かのすけ」は其蒸滊船と競爭する積で勢一杯櫓を押し始めた。船の內腹に座つていた少年は「取梶！取梶！」と叫んだ。併し一生懸命の「かのすけ」それには耳をかさなかつた。唯盲目滅法に漕いだ。すると蒸滊船の方から危ないといふ水夫の烈しい聲が聽ゑた。其時はもう遲かつた。船首は蒸氣船の側車のところへぶつかつたのである。船は殆んど覆らうとした。水が這入つた。見ると舳先の方は半分もげて、蒸氣船の平氣で立てゝ行く波の上に漂ふてゐる。「かのすけ」は悠々と立ち上つて櫓の外れたのを整へ、浮いてゐる板切と蒸氣船の車の側に下げてあつた白いペンキ塗の丸太棒を拾ひ取つて、それを分捕だといつて凱歌を奏しながら引上げた。あゝ面白かりしよと「かのすけ」は友に別れて夕暮に成つてから家へ歸つた。玄關の閾を跨がうとすると、大喝一聲、馬鹿野郎と父は烈火の如く怒り猛つて飛びかゝつてくる。「かのすけ」は周章てゝ逃げ出した。父は其跡を追ひかけていつて庭の隅でとうとう彼を捕へて、續けざまに鐵拳を二つ三つ喰はしながら、「此亂暴者奴！他人の船を壞して何うする、申譯がないではないか。お前のやうな奴は木の上へ吊して置いて百敲にしてやる」と云つた。さうして邊にあつた帆綱を取つて泣き入る「かのすけ」を後手に縛らうとした。幸に此時、いつも可愛がつてくれる伯母さんが居合せて「かのすけ」を父の強い腕から救ひ取つて、本家へ連れて行つてくれた。本家の伯父さんは「かのすけ」を連れて來て父に謝罪つてくれた。「かのすけ」は伯父さんの後ろへ隱れて涙を拭つてゐた。伯父さんが歸つてから母は陰へ廻つて一包のお菓子を下すつた。

四

月日の經つのは早いものである。その時の「かのすけ」は今は一家の主人である。妻もあれば一人の子息もある。しかし今も猶ほ、氷の川へ投ぜられた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ことゝ、鐵拳を喰はされて、庭の立樹の上へ吊されやうとした時のことは昨日のことのやうに覺えてゐる。久しい間何の爲めにあんなに酷い目に遭されたのだか譯が薩張り分らないで、唯うらめしくのみ思ふてゐた。しかし年を經るに從つて漸々分つて來た後に彼れがクリスチヤンに成つて、聖書のうちに「そは主その愛する者を懲め又すべて其納る所の子を鞭てり、なんぢ懲治を忍ばゞ神の子の如く爾曹を待ひ給ふなり。誰か父の懲めざる子あらんや。衆の人の受くる懲治もし爾曹に無くば、そは私子にして實子にあらず」といふ所を讀んで其意味が本統に悟ることが出來た。彼は時々餘り火の用心が嚴重に過ぎるといつて妻に笑はれることがある。其時いつも彼は母の慈悲を感ずるのである。過去に於てあまり人に迷惑など懸けたことのなきことを思ひ起す度ごとにしみ〴〵と父母の教訓の難有さを感ずる。事に當つて責任を重ずる念と、困難に遭ふて他人よりも多少忍耐強いことゝを自覺するときに彼は常に父母に感謝することを忘れぬ。

噫彼の二度の懲治は「かのすけ」に取つてはうらめしい痛い鞭であつた。されど夫は愛の鞭であつた。這の愛の鞭は甘いお菓子を澤山に頂いたときの父母の慈愛よりも遙かに印象が深くして難有いものである。

見果てぬ夢

（前橋新人社講演會の記）

野口せい

紀元節と云へば梅の早咲に春の匂ひがかすかに流るゝ斗り、鶯の鳴音にそそのかされて茫然と暖かい光りに心身を溶かす様な氣持にはまだ仲々遠い。赤城颪の烈いのも寧此頃よりぞ増り行くといふ、大き

うはあれどあの穏かな優然たる、一寸見ても裾野が幾十里もあらうと思はるゝ山から、どうしてこんな厳しいさす様な風を送るだろうかと不思議な程、併し其後に丁度襞を取つた様に眞白に越後の山が覗いて居るのを見れば風の本元は其處らにあるらしい。

かゝる時東京よりお揃ひのお出でとあるから夢と思ふも僞りと感ずるのも仕方がない。汽車の時間の幾らもかゝらぬ事や、ある丈けの熱心を傾けてお迎へしたいと願つてる位の事は、百も御承知の筈、今更そんなお話が始まる程なら、私なんど、島流しのさんざ淋しい思ひに泣かなくてもよかつた、嬉しさも嬉しいが一寸駄々をこねて見度い。

それもいよ〳〵となつては何だか氣がそわ〳〵して落着かぬ。相談會又相談會と云ふ有様で、三日四日前から半分位はお姿を拜むだ様なさわぎ、男子の連中が準備に奔走すれば、負けて置く様な婦人會ではありませぬ、ぎゆうつと云ふ程の働きを見せ度いと意氣の盛な事は流石に上州でしよふ。こんな風なら時々は話丈けでも萬更無駄ではないと思つた。それは其筈、前橋は海老名先生御夫婦が、新婚早々お働き成された、云はば此教會も其美しい、わか〳〵しい元氣に滿ちた果ての結ぼりで、だん〳〵今日迄成長して來たものですから、先生は度々御出でになるが、夫人は夫以來始めての御越といふ、五十も越えて六十歳にもなろうとする、婦人會の古株が急に三十年も若がへりして、御迎えする氣で、相談會の席上すでに引くりかへる様なさわぎ、其頃海老名夫人を先導に此婦人方が始めて束髪といふものにした時は、町内の評判は大したものであつたとか、今は教會のお父さんと云はるゝ、その頃求道者の一人であつた方が、耶蘇にはなれそうだが、妻君に對して先生の様な親切が出來さうもないと首をひねつた事や、いや海老名夫人の半纏姿が出るかと思へば急轉直下洋服のハイカラ姿を云ふものもある、肝心の相談はどう纏まつたか聞いて居る計りの私共は、賑やかな活動寫眞場に行つた様……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かうして二月十日正午に御夫婦は前橋にお着になつた、心配して居た赤城颪もなく、暖かい日で停車場の向ふの麥畑から陽炎がもえて居るお〻春になつたと、心の春が半はかう思はしめたろう、滊車が着いてお二人の姿が見えて人込みを押し分けて行く刹那嬉しい、なつかしい情ひが一杯で、もう胸は苦しかつた、お迎ひに同伴した子供が帽子を取つてお辭儀をした。

その日午後一時半からの歓迎會は臨江閣であつた、利根の奔流を眞下に経へて、遠く榛名妙義の連山が一目の間に聳えて居る、其中程に淺間が今日はおとなしく糸の様な煙を引いて眠つて居る、海老名先生が詩材には富んだものだと獨言のやうに仰つしやつた。正式の歓迎會が初まる前、もう皆嬉しい懐しい思出に花やかに笑つて居る。今日の歓迎會は九分九厘迄は家内の爲めであつて、自分は何だかお伴の様だと先生は答辭に述べられた。もしこれが他人の間柄ならばとんだ失策で、どんなにお詫びをしても償はれぬ處だが幸

に御夫婦の間の御感じだから此方も笑つて聞いた。紀念の爲め廣庭で寫眞を撮つて散會したのは、妙義の背に日が入つて　淺間の煙が紫になつた頃、河から上つて來る夕風は流石に冷たかつた。晩餐の用意もそこ／＼先生の前に香の物出さぬ位がせめてもの心盡しで簡略に濟まして頂きました。東京の和田さんと、佐野の松尾さんも御一緒で賑やかであつたのが嬉しかつた、御飯後集會に行く前、一寸の時を海老名夫人は何だか色々の話があつたのに、顏を見たら忘れたと仰しやつてお出しにならぬ。私は見果てぬ夢の半ばにして、ふッつりと覺めた樣な氣持、何處迄も追ふて行き度かつた、子供が傍に居て、おばさんと母さんとのお話が面白くなるのを恨めしそうに邪魔をするから仕方がないとあきらめた。

其夜の集會は眞に盛會で、立つても居ても身動きならぬ有樣、前々から骨を折つて準備をせられた役員が肩の荷の半分はおろしたと喜ばれた、御夫婦は其夜岩神のベッドレー氏方へお泊りになる、公式の御入來で日本風の行屆かぬホテルでは不味いと、そう極まつたから仕方がない、和田さんが泊まつて下さるので、もの足らぬ感じはいやされました。

明くれば十一日、紀元節の祝日、今日は又嬉しい事がある、安井先生を迎へてお目に懸つてお話をきく、又云ふ事もある。先から來る／＼と仰しやつて何時も何かに妨げられ果されなかつた、此度こそ本當だと思ふと、手も足も浮く樣に嬉しい、去年の四月お別れして以來今日迄の事が色々と胸にこぼれて拾ひきれない、折角の事だから是非一夜泊まつて頂き度いと前から申上げたけれども公私多用の折柄如何しても都合が出來ぬ、自分の本心にも背く譯だか又の折にして呉れとの御返事、而かも紀元節の式をお濟ましなさつてからの御發足、御目に懸つたとて如何しよう、其飽氣なさを思ふといやになる、お迎ひには誰が行くといふ話が出た時、無論私は行き度いと思つた、赤城館の會食が濟んで、そろ／＼講演會が始まるといふ時、ひし／＼とつめかける人を見捨て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゝ停車場に行つた、豫定の滊車が來る迄三十分もある、備付の雜誌などに目を配つて居ても二三分毎には時計をながめて居た、暫くすると停車場の役人が私に用ありげに歩いて來る、何だろうと思へばお待ちのお客様はもうお着きになりました、只今赤城館から電話ですといふ、全で狐につままれた樣な話、僞りの樣にもあるが異逆そんな事もあるまい仕方がないと又車を返した。海老名夫人の御話が半分迄進んで居た、今日もぎつしりの聽衆、赤城館の大廣間は人の頭がうじや〳〵して居る、疊の上の講演は何だかお寺の說敎の樣だと思つた。お話が有益で久しぶりに活を入れてもらつた思ひがしたのは、數百人の聽衆皆然うだろうと存ます、人がぞや〳〵立つ、私も立つて安井先生の處に行つた、お目に懸つたら又淚がこぼれそうで他人の手前はづかしいからと隨分心配した、まア御免なさいよと豫定より一滊車早く御着になつた事をおわびになるプログラムを忘れて何處で此集會があるとも知らず、ものゝ分らぬ事夫を相手に隨分まご〳〵なさつたとか、もうお宅にも寄つて坊ちやんにも會て來たと、而して庭先の杉垣をめぐつて居る利根の分れの細流が氣に入つたと仰しやつた。晩餐にはお客様三人と私共二人とベットレー氏方におよばれ。お泊まりにならぬ代りに御飯丈けは是非私にさせて頂き度いと思つたが、ベッドレー氏の親切に讓つて私共迄御馳走になつた、安井先生と私は岩神迄、松の並木の土堤を歩いた、丁度其時から生憎風が出て、何時もなら、ながめても〳〵見飽かぬ山の夕けしきが凄じう荒れて、利根の河原には砂塵が捲上つて居る、妙義のあたり夕映の名殘りに燃えた雲のみは妙にあかかつた。前橋は如何ですかと仰しやたもう大分馴れましたよ、でも東京の戀ひしさは變りませぬこといへば、そうでせう時々は心細い泣き度い樣な歌が出るからねーと、今日は如何した譯か始終淚が出るといへば神經衰弱ではないかと心配して下さる、しかし私は此頃の樣に健康を續けて居る事はありませぬ、少し暇が出來たら、

こんなさわぎにならぬ樣にしてそをつと泊まりに來るからと仰しやつた、先生は何時がお暇だと云ふ時は年中おありにならぬ位忙はしい方です、けれども東京から前橋は近い、僞りのない先生が夢の樣に、心行く一夜、二夜を寢に來て下さるのを今から待つて居ます、其時は手繰りかけたお話を仕舞つて又新しき喜びを卷き度いと思つて居る、かうして私共の生活が常に一つの源につながつて活きて居る事が出來たら、此程の嬉しさはありませぬ、われとわれから堰き止めて心細い頼りない生活をするのは田舍ものゝあはれな處とつく〴〵思ひました。お三人が七時の汽車でお歸京になる時の風は隨分冷たく身を切る樣でした、暗と人とに紛れてさようならは云はなかつた。あの汽車が上野に着いたと思ふ後迄和田さんと三人は眠らずに起きて居た、見果てぬ夢のあとの思ひは糸の樣に長く、今もなほ續いて居る。

朝鮮の婦人

平壤　高橋直巖

朝鮮の婦人に就て別に研究した事もないし、又研究しようと思ても居らぬが、併し異樣な風俗をなして居る姉妹方に、毎日何十人となく出喰はすので、なんぼ木強漢の僕でも、少し書いて見ようか位の氣が起て來たので、見聞のまゝを三四書いて見る事にした。柄にもない事を出娑張りてとんだ失敗をするかも知れないがそこは一つ姉妹方の寛大なお取なしを願ひたい所です。

○

或時僕が某朝鮮人に、君には御子供は幾人あるかと尋ねた處、一人もないと答へた。數日經て其人の家を訪ふた時に、女の子が貳人遊んで居る、隣家の子か親類の子かと問ふた所、私の娘であると答へた。變な事をいふ人だ、始め聞いた時に子供は一人もないといふて、今は娘子二人私のものといふ。其後屢同一類の事を聞くので、怪しからん事と思ふて居つた。子供四人もあるのに、一人しかないといふたり、七人も八人もあるのに、一人もないと悲しそうにいふ

たりするが朝鮮人といふものは妙な事をいふものと思ふて居つたが、成程妙な筈だ、女の子は何人ありても子供といはぬ。子供といふ時は男の子斗りを意味するのである。それで朝鮮人の子供を精確に知ろふとならば、御子供樣は幾人ありますか、其返事を聞て、其次は御娘子は何人ありますかといふ風に聞かねばならぬ。之で以て朝鮮人の婦人觀のあらましを知ることが出來る樣だ。

○

傳道の爲に平壤を去る十里の西の甑山郡といふ所に往つた事がある。往復四日間を費したが、婦人には殆と逢はない。只一老婦人が信者であるとの事で立ちながら僕が遠方から來て傳道するのを感謝して挨拶をして歸つた。其婦人を見た限りであつた。平壤では僕の交際して居る朝鮮人が段々出來たが、何時往て見ても婦人が出て挨拶する事などは頓とない。其處に居つても物いはぬ。時にうどんなどの饗應に預ることなどあるが、凡て男子が世話をする。偶臺所から手を伸して食品を出しても、顏は出さない。つまり婦人の手を見ることは出來ても、面と相對して物いふ事などは決して出來ないと云ふ譯である。

○

家庭内の婦人を見よふとならば、妻を連れて訪問するがよい。或時僕は家内同伴で朝鮮の友人方を訪問した所が、其主婦が出て來て色々と取り持つて吳れた。併し若い娘子さんは顏も姿も見せなんだ。風俗といふは變れば變るものである。夫れならば朝鮮人を見るとは容易でないかといふにそんな事はない。當地では殊に婦人が市場に出て賣買すること男子とかはらない、又大同江岸の活動は重に婦人だ、卽ち洗濯で忙しい有樣は大同江に限らない、水のある所に婦人ありだ。大きい箆棒で洗濯する。日本婦人の洗濯は手で採み落す方だが、朝鮮人のは箆棒で叩き落すといふ方だ。

○

一日親しい朝鮮人が御夫婦連で僕の家を尋ねて吳

れた。四方山の話の末に其夫人は私は子を產んだ事はありません、男の子も女の子も一人もありませんといふ。そして其家には三人許子供が居るが、察するに此は妾腹であるらしい。僕は氣の毒で聽いても見ないが、なんでも朝鮮人は妻を迎へても子女なき時は妾を蓄へても耻づべきでない。宗祀の爲に當然であると考へて居るとの事だ。

○

之も田舍に往つた時の事であつた。通譯者と二人テク〳〵歩いて居つた所が、僕の先に老若入り雜つて婦人が連十人斗り歩いて居る、僕らが其婦人連に一丁斗りも近くなつた時に、チャンと道の側に立ち止り顔を背けて、僕らの通り過ぐるを待て居つた。僕は氣の毒で早足で通り過ぎたが、四五丁往て僕は草鞋の工合を直して居つた所が、其婦人連が近いて來たが、僕らを見て又一丁斗り先に立ち止て居る。僕は何せあんなにするだろふと通譯に聞いた處、外國人を恐れてゞあると。夫で僕は通譯者に日本の牧師だ、惡い事はせぬ人だといはせた處が、彼ら婦人連中は笑味を含て僕らを通り越した。

○

近頃は攝氏零下二十度を昇下する嚴烈なる氣候で大同江は一尺餘の厚氷で張り詰め、牛車も人馬も自在に往來して居るが、朝鮮婦人は雪かとまがふ白衣で其厚氷に大盥の穴を穿ち其處にて洗濯して居る此處に五人彼處に十人といふ風で、頻りに篦棒で叩いては濯ぎ、叩いては濯ぎして居る。朝鮮婦人の活動振りは此洗濯にとらはれて居る。「妾の此世に生れしは斯くして白いものを素の白さにして返すにあり」といふて居るかの如く見えて、僕は朝鮮婦人の洗濯を見て居ると一種の感じが起る。

○

朝鮮婦人は家にありては內房に閉ぢ籠り、外に出ても男子と交際する機會がないから、引込み思案の因循ものかといふに中々左樣なものでない。僕の知つて居る婦人は皆主人以上だ。其交際術といひ、其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

應對振りといひ、夫は日本婦人などの及ぶ所でない。(一般の比較でいふ)又僕は時に膽をつぶすことがある朝鮮町の裏通り(時には表の通りにも)には老婦人が雲なす見物の中に堂々たる有髯男子を、三寸の舌鋒を以て縱橫無碍に切りまくつて居るのを屢々見る朝鮮婦人の辯才と勇氣とは何處より得來るや、少女の時は誠に柔しくて無口で因循で世間知らずの樣であるが、老婦人となると豪らいものになる。僕は朝鮮婦人のことを見ると先年の王妃の事を憶はざるを得ない。何にせよ朝鮮婦人は僕の爲にはエッキスだ此を解決したら又くさ〴〵の問題が起て來るであろふ從て朝鮮婦人の爲に獻身的奉仕を要求せらるゝ事が多いだろふと思ふ。

スノードロップ

田澤藤郎

○漂泊の子らの行衛は問はずあれ
　風は心のまゝに吹くかな

○自らの牢獄の中に晝も夜も
　やむよしもなき嘆きをぞする

○何時となく我身は君が腕にありぬ
　花瓣の中の蕊のごとくに

○われを虐ぐにくき心は夜も晝も
　君が姿をまぼろしに見る

○春の朝心地よげなるさゞ波の
　踊る汀に鷗さわりぬ

○風かほる、あけぼのゝ空、水の色
　みななつかしき南歐の春

○夜になれば萎れてありぬ晝になれば
　わかやぐ花に似し心かな

○愛らしきスノードロップは夜になれば
　頭うなだれ萎れてありぬ

○もの憂かり、スノードロップのうなだれて
　咲ける書齋のほのくらきかげ

○靜かなる、うつろの胸も折々は
　嵐のごとき、どよめきもする

○かにかくに花の心は知らざれど
　花によく似し心は君が

○たゞ一言たゞ一言を許さしめ
　命は直にめさるともよし

櫻

不喚生

○何とか云ふ寺だつた。花の里にはふさわしい寺の名と思つたが思ひ出せない。其寺に由緒ありげに咲く老木の櫻が又糸櫻と云つて見事だつた。本堂に香の煙棚引いて微かな讀經の聲も聞えた。

其寺の名は忘れたり糸櫻　召波

○色好まざらんをのこはなどゝ出家に似合はぬ洒落た事を云ふ法師が昔有つた。吉田の兼好法師である。本統に悧らしい坊さんぢやありませんか。どんな坊さんか覗いて遣りませうなどゝ云つて居る。落花狼藉。日は西に傾いた。

花の幕兼好を覗く女あり　蕪村

○花を見ても泣く。月を見ても泣く。感情の強い人は物に觸れて自分の腹の底にある平生の心持が押へ切れなくなる。今日親しい友達と人里遠い深山の花を見に來た。處がこの友達大の泣蟲だつたから弱つた。弱つたなんぞと云ふは云つたが、實を云ふと自分も同じやうに泣きたくなる人間なんだから仕やうがない。

泣き蟲を花に連れ來し悔み哉　櫻硯子

○向うの端山には松の木の間に眞白に咲く櫻が一本あつた。裏の小川に沿ふた籔にも若木の櫻が二三本あつて能く咲いた。花の咲く頃になるとこんな事が皆思出の種になる。けれども今年はもう此處へ引越して了つたから去年迄のやうな落附いた春の心持になれない。花は毎年咲くんだが自分はどうして斯る何時迄も萎え切らないのだらう。

移り住んで花見る心劣りけり　幾句拙

○花が咲いた。お寺は開山忌である。稚兒が出るさうな。行つて見る。母アさんは信玄袋を疊み床几を持て瑤珞を被つた美イちやんに跟いて行く。花曇りで暖かいから母アさんは鼻汗を搔いて居るナニ暖かいんぢやない、のぼせて居るのだらう。

練り稚兒の親の心や花の雲　六花

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

學校の撰擇

向軍治

△父兄の責任

學校の撰擇といふ事を論ずる前に、父母兄長の責任を論ぜねばならぬ。今の世の人ほど、子弟の教育に無頓着なものはあるまい。今の學校ほど困つたものはない。教師の力が薄い。教科書がわるい。授業法がゆき屆かない、學生の個人性が、全く無視せられて居る。其の原因には、金がないといふ事もあらう。人が居らぬといふ事もあらうが、大なる原因の一つは、父兄が無頓着なといふ事にある。父兄が今少し、子弟の教育に熱心で、學校にむかつて希望する處多ければ、學校は改良せられざらんと欲するも得ざるのである。我が國近年の有樣は、文明の逆戻りで、折角、自由思想、義務の觀念、獨立の精神忠信主義が盛になつて來る處へ、忠孝論や、家族主義や、偏狹なる國家主義などの、時勢おくれの思想が、幅をまかせるやうになつて來た。世界的になつた日本の進歩の上から見れば、此の位悲しむべき事はない。我が國に無政府主義の如きものが出來ては困ると歎息する老人があるが、コレラでも、ペストでも、どん／＼這入つてくる世界的の日本に、無政府主義のみ這入るなといつても、無理な話である。凡そ社會國家の害毒となるものは、病氣と同じ事で外之れに對して防止の策を講ずる必要があると共にそれのみに滿足しないで、内自ら強くして、抵抗力

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を養成する必要がある。今の世の人の、無政府主義や、自然主義を壓倒せんとする方策を見るに、枯草や、煙硝を並べておいて、火の粉の飛んでくるのを揉み消さんとする如き感がある。來るなと云つても、火の粉が飛んでくる以上は仕方がない容易に燃えつかない工夫をするより外はないのである。こゝに於て子女の敎育に關する父兄の責任は、たゞに學校の撰擇のみに止らず、子弟の敎育全部にむかつて、今一層大に力を盡す必要がある。

△學校の缺點

學校の良否は、父兄よりも子供の方がよく知つて居る。私が宅で學校の善惡を論ずると、總領の子供はいつでも二口目には、どこにもろくな學校はないといふ。悲哉此の言がなか〜〜眞理を含んで居る。私は六七年前麻布に居を卜した事がある。それは自分が留守で、家族の監督を他人にたのむ必要があつたので、幸ひ麻布には、弟が居り麻布小學校といふ古い小學校があり、近所に敎會もあつたから

である。然るに、半年許り經た後、子供の學力が、餘程落ちたのに氣がついて、よく調べて見ると、學校が惡るいのであるいとふ事が分つて、俄に轉宅の必要を感じた。私には、子供が六人ある。居をトする時には子供本位にして居る。自分は自轉車なり、電車なりで、いくらでも用は便ずる。子供は今の不完全な交通機關を頼みにさせる譯に行ぬから、學校と敎會とに近い處に家をもつ事にして居る。幸ひに麴町には番町小學校と、敎會が近所にあるのとで、六七年前から麴町に住つて居る。總領の娘は只今、矢島女史の監督せらるゝ女子學院へ通學中であるが、弟妹の成蹟の惡いのを見る度毎に、私が居る時は、番町小學校はいゝ學校であつたが、校長が代つてから段々惡くなつたなどゝ云ふ。子供の言、一概には信じがたいが、必ずしも、うそでもないやうである。今日の小學校は學問の上から云つても、修身の上から云つても、誠に缺點が多い。學校のみに任せて、安心して居たら、大間違ひの基である。必ず家庭に於て豫習復習を嚴重に監督し、修身に關しても、十分に注意する必要がある。數日前も、一年級の子供がいふことに、「今度天子樣は貧乏人の爲めに、百五十萬圓下さつたさうですね、獨逸の天子樣でも、露西亞の天子樣でも、少しも下さらないのに、日本の天子樣ばかり下さるさうです」と云つた。こんな馬鹿な事を敎へる敎師に、子供の敎育を頼んでおいたなら、どんな間違ひが出來るかも知れない。私の兄は中學校長であるが、校長自分が學校の授業のみでは上級の學校に入學するに、必要な、充分の力がつかないといふ事を自覺して、そんな子供には課外に勉强させて居る。私も今中學生の補習を二三人頼まれて居る。その學生は俊才であるが、學校の敎育が不完全な爲め、生れつかない鈍物になつて居る。これを生れつきの智惠に回復させるだけに、どれ位骨が折れるか知れない。小學校でも中學でも學校のみに頼んで置いたならば、充分でないとは情けないわけではあるまいか。然し、此の事を知つて居る父兄が、世

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

間に幾人あるだらうか。

△宗教趣味のある學校

人には智慧さへあればいゝ、物事を知つて居れば足るといふものでない。必ず德が備はらなくてはならぬとは、頑固思想家のよく云ふ事であるが、今日の學校は果して此の理想に叶つて居るであらうか。私は斷然否と答へざるを得ない。畫法に畫龍點睛を云ふ事があるが、今日の學校の教育は尾がついたり鰭がついたり、鱗がついたりして一寸見ると立派であるが、眼の球がないから、人間が死んで居る。目下教育の大家と目指されて居る某氏は、我が國の教育は宗教と教育とを全く別にして居るので、世界中にない完全な制度であつて、歐米人も羨んで居ると云はれた。此の位間違つた、皮想的な見解はない歐米で宗教、教育の分離といふのは、學校に對する教會の壓迫をなくするといふ意味なので、兒童の頭に宗教思想を注入しない、否な兒童の頭から宗教思想を洗ひ去るといふ事とは、全然別なのである。歐米では久しき以前から、教育は全く教會で司つて居つた結果として、今日でも教會の壓制、思想の壓迫文明の進步の妨害となること夥しいものがある。こゝに於て宗教と教育との分離、卽ち實は教會と學校との分離と云ふ說が盛に起つたのである。米國などでは宗教、教育の分離を說いた結果が、教會と學校との分離のみに止らずして、宗教思想の洗ひ去りとなる恐れがあるのに氣がついて、此の頃はまた宗教教育の調和の必要を論ずるものがある。教育家ともあらうものが、是等の事情を少しも知らずに、名目が宗教、教育の分離といふのであるから、我が國の教育制度が、西洋の自由思想家の理想に叶ふたものだと、早合點をするとは誠に殘念の至りである。西洋の自由思想家は、今日の我が國の教育の狀態を見たら、西洋の教會の壓迫の方が、まだましだといふだらう。兎に角今日の學校では、宗教思想を吹き込まぬどころではない、却て之れを洗ひ去る事をつとめて居る故に子弟に完全な教育を施したいと思ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ならば、必ず宗教趣味のある學校を撰ばねばならぬ

△淺薄なる忠孝主義

敎育勅語を、唯一の標準として、忠孝主義を吹き込みさへすれば、完全な人が出來ると思ふのが、根本的に誤解である。昔は社會の生活全體が、忠孝主義の實現で、一方に子弟たるものが、その活社會の感化壓迫を受くると同時に、かた一方に於ては師匠たり、父母たるものが忠孝主義を盛に吹き込んで子弟に忠孝主義的人生觀をつくらしめ、此の主義を貫くに必要なる意志の敎育を、社會の感化と、家庭の誘導とにより、懲戒、鞭撻等の消極的手段と寒稽古、禮儀作法等の積極的手段とを以て施し、智慧を發達させる、物事を知らしむるといふよりも、意志の强固なる、理想に向つて、勇往邁進する人格を養成することにつとめたのである。昔に於て此の敎育がある程度まで成功したからといふので、忠が何とか、孝が何とか云ふやうな事のみを說き聞かせさへすれば、立派な人格が出來るものであるなどゝ考へるのは、敎育の何たるを知らざるもの、昔の敎育の成功したる所以を達觀し能はざる鈍物、昔の長所を今の社會に、如何に應用すべきかを知らざる時勢おくれである。敎育勅語を唯一の根據とせる忠孝敎育で滿足するのは、子女が新聞、雜誌を讀み得ざる時代即ち小學校時代のみに限るのである。中學校高等女學校迄に子女は新聞雜誌と社會の狀態と、世界の趨勢とに感化せられて、その小學校に吹き込まれたる修身の理想が、今の世の中の實際と、一致しないと云ふ事を疾くに看破して仕舞ふ此の捕へられたる敎育に、捕へられたる子女が、自覺心を得る時の反動は、皆、今の敎育家が恐しがる結果となつて表はれるのである。世人やゝもすれば、靑年子女が墮落したと云ふが、もし果して然りとせば、その責任は今日の敎育が全然引き受けなければならぬ。

△敎育の第一義

宗敎心は本來、人間に備はつて居るものではない宗敎家が人性に强いるのだといふ說がある。我が國

の宗教、教育の分離を説く教育家も、多數は此の立脚點に居る。これ位間違つた説はない。ダーウィン出でゝより後此の世の中は自然の發達によりて出來たのであるといふことは、誰れも知つて居る。自然界にあるべからざる宗教心が、何處から自然界の一部分たる人間社會には入つて來たのであるか、唯物論者ほど自家撞着の説を平然と主張するはのもない宗教心は恐怖心の變態だと云ふ説もある。變態でも何でも、變じて宗教心となるその根本の恐怖は、誰れが造つたのであらうか。恐怖心が事實である以上は、宗教心も事實となるわけではないか。恐怖心が既に備つて居つて、やゝもすれは、迷信の害に陷りやすいとならば、是れを迷信に陷らざるやうにする宗教が必要といふ事にはなりはすまいか。日本人はやゝもすれば云ふ「子女を教會に遣はして、迷信を吹き込ませ、その思想の自由を壓迫するのは、父母たるものゝ謹しむべき事である」と、考へある西洋人は云ふ「父母が見て惡いと思ふもの、必ずしも惡

ゝないかも知れない。子供の思想の自由の發達を妨げてはならぬから、自己は迷信の教育も、子供には受けはさなくては親の責任が盡くせない」と、同じく思想の自由と責任觀念とより出來てくる現象であるが、其結果の正反對であるのは、心すべき事ではあるまいか。忠といひ孝といふは、人の道の一部分である。普通教育に於ては、一般的の人となる事からまづ教へてかゝらねばならぬ。大なる宇宙に介在する小なる人間の心得を悟らしむる事が、教育の第一義でなくてはならぬ。子と生れた以上は、臣下と生れた以上はなどゝ云ふよりも、人と生れた以上はといふ事をまづ教へねばならぬ。生きて活動して居る以上は、また死ぬる恐れがある以上は、生とは何ぞやいふ事も考へる機會を與へねばならぬ。何をか人生と云ふといふ問題を解釋し得る子女を作つておけば自然主義か起らうが、無政府主義が這入つて來やうが、確固たる品性は動けと云つても動きはせない。學校で勅語の奉讀をして聞かせさへすれば、子供は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

忠孝的の人格となるものだと思ふのが、抑々人間の何たるを解せざる證據である。政府が壓迫を加へて普通の學校の中には、宗教を免さぬとならば、已むを得ず、日本國中至る所に、特種の學校を設ける必要がある。宗教家の奮發すべき所は第一に此處にあると思ふ。

△先づ人たるの教育

世人やゝもすれば良妻賢母と云ふ。女子が、通例妻となり母となる以上は、良妻賢母といふ徳が女子に必要なことはいふまでもない事である。けれども時進日歩の今日の世の中で今の普通の學校の教育が果して良妻賢母の資格をつくるに、適當であらうか。早い話が宗教思想の皆無な、寂寞たる曠野の如き母親の頭が、蝶や花を慕ふ子女の心裏を味へるであらうか。強い方面や智識に闘する事は、父親が吹き込む事も出來やうが、優しい情の發達高尚潔白なるゆかしき思想の馴致は、宗教心のない母親に果して出來るであらうか。今日の子供には兎に角、世界的の智識と感情とを與へねばならぬといふ事は、誰れも認めざるを得ない事である。外國の新聞雜紙もろくに讀めない母親が、果して賢母の任を盡せるであらうか。科學の進歩は日を追ふて新なる世の中に、自然界の解釋に、趣味をもたぬ智識の乏しい母親が、果して遺憾なき子供の教育が出來やうか。私は知識の側のみから見ても、己れの子女を教へ導くに、不完全なる事を考へて、常に慊然たるものである。世間の人の、女子には高等教育は不必要だなど、云ふ人の氣が知れない。

夫たるものは、活動の範圍が廣く、かつ大なるだけに誘惑も多い。その廣くかつ大なる務を盡す爲めには、どの位内助を要するか知れない。夫が平常何を讀んで居るか、何を書いて居るかの判斷も出來ないやうなものは、良妻たるつとめの盡せる筈はない。況んや夫に力を與へて、誘惑に克たしむると云ふには、良妻たる人は智情意共によほど發達した人でなければならぬ。世界の進歩に伴へる智識と、宇宙の大に亘る信仰心とのない妻が、どうしてやゝもすれば酒に醉ひ女に狂ふ夫を感化することが出來るであらうか。内に居ては煮物、縫物、外に出でゝは、見世物の外には、理解力と趣味とのない婦人がどうして今日の複雜なる世を渡る夫の良妻となる事が出來やう。多い良妻賢母といふ側のみから見ても、今日の教育は、全然目的にはづれて居る。況んや人生には不幸が多くて、早く夫に別れ子に死なれ又まゝ嫁ぐ事の出來ないものもある。良妻賢母の任の盡し處がないではないか。良妻賢母たるよりもまづ、個人として立つ事を十分にわきまへた女は、妻となり、母となつては、良妻賢母となることが出來、獨立しては男子に劣らざる活働が出來るといふ、國家の中の健全なる一分子となる事が出來るのである。西洋には、婦人の船長もあり、市長もあり、辯護士もあり、大學教授もあり、參政運動者すらある世の中に、良妻賢母の外は知らぬ等とは普通の人は兎も角も教育家としては、氣の毒の言を以て評するの外はない。

△外國語の奬勵

文明の國で日本國程、國語、國文の整理のゆき屆かない國はない。西洋では國語國文は敎育の重要な道具になつて、個人性、國民性等を發達させる爲めの殆んど唯一の武器となつて居るのに、我が國の國語國文は少年子の發達を妨害する外大した利益はない事になつて居る。世界的の智識理想を求めんとするに女が國語國文によつてどんな助けを得るであらうか。過去は遡る事は出來ない。未來の子女の爲めに一日も早く、國語國文を整理して、せめて初等敎育だけでも、差支ないやうにしたいものではないか。何しろ過去の國語國文は、世界的の智識、理想を養成せしむるには殆んど功能がない以上は、涙をふるつても今日の子女に向つて、外國語の勉强を奬勵せねばならぬ。良妻賢母となるべきものの、外國語の智識が薄弱であつては、未來は闇の夜となる仕組みが出來て居ると見るより外はない。他の諸學科は犧牲にしても、外國語の勉强に便利なる學校を選ぶと云ふ事がたゞに、子女個人の爲めのみならず國家の爲めに、必要なことである。

△女子學院

右の理由からして私は、女の子を、女子學院に通學させるのである。修身に於ては、無味乾燥なる個條あげの道德敎を賴みにするよりも、個人の小より宇宙の大にわたる理想を主義とせる、宗敎的敎育を受けさせたい。修身、齊家、治國、平天下の敎はその中に含まれて居る。また學科に於ては世界の進步と、步調を合して居る敎育、殊に良妻賢母となるに必要缺くべからざる外國語を重んずる敎育を受けさせたい。また周圍がなるべく、潔白で、衣服を飾つたり、白粉を用ゐたり、容貌の美醜にうつゝを拔かしたたりするやうな弊害の少ない敎育を受けさせたい。子女が、奢侈に流れては、その身の爲めにならぬ許りでない、實際敎育の任に當つて居る親がたまらない。東京市中高等女學校は隨分多いが、此の三個の個條を具備した學校は、宗敎家の建てゝ居る學校、或は私立學校の外には全くないと云ふても差

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支ない。こゝに於て私は女子學院を撰んだのである。女子學院必ずしも、完全無缺でないかも知れない。然れども他の高等女學校に比すれば、確かに、一等地を拔いて居る。矢島女史は、文部の束縛を受けなければ、文部から認可を呉れないとならば、何も認可をもらふ必要はない。自己に一個の主義があつて此の主義を貫かんとすればこそ學校もたてゝ居る。主義をまづ放棄するほどなら、學校を廢めた方が早い。生徒の父兄が、お困りになつて、さぞ御迷惑とは思ふが、迷惑をかけるのは、學校ではない。文部省あると云ふ事を知つてもらひたいと云はれるか、どうかは知らないが、兎に角、此の位な確信をもつて學校を經營して居らるゝ事は確かである。今の世の中の様に、文部の認可などゝ云ふ形式の爲めに、子女の一生を誤らせたくない人は、女子學院の如き學校へ通學せしめらるゝが、最も得策であると思ふ。父母たるものは自己の利益の爲めに、子女を敎育するのではなくて、宇宙の眞理を全うせんが爲めに、子女の敎育の任をおびて居るのであるといふ事を、瞬時も忘れてはならぬ。眞理の宿るべき宮殿とも云ふべき子女の身體、眞理を容るべき器たる、その精神の發達の爲めに、父母たるものは宇宙に對して神に對して神聖なる敎育の責任あることを忘れてはならぬ。古説に曰く、身體髮膚受二之父母一不三敢毀傷一孝之始也と、子女の身體髮膚天より出づ。敢て毀傷せざるはの孝始め也とでもしたらばどうであらう。況んやその靈性の神聖なる發達に於てをや。

質素な學校

某　夫人

私の宅は、偏僻で御座いまして、何分、通學に不便で御座いますところから、いろ〳〵考へました末、女子學院にお願ひすることにいたしました。同校は宗敎主義の學校で御座いますし、且つは、先生方におちかづきも御座いますしゝて、極かたい、質素な

大丈夫な處があると存じまして入學致させましたので御座います。

もう、來年は、普通科を卒業いたすやうになりましたので御座いますが、入學致させまして以來、私は、まだ、學校に對して不滿足に感じた事は御座いませぬ。よく、女學校へ出すと、どんな着物でなくては、學校へゆけぬの、こんな袴、あんなりぼんとむづかしくて困るといふやうな事を聞きますが、女子學院では、既に、絹布を着けたり、あまり、目にたつりぼんをかけたりする事は禁じられて居ります。それ故ですか、宅の娘など、一度も、衣服や、身のまはりについて、かれこれ申した事は御座いませぬ。たまに、銘仙の着物など、着てゆくやうに申しましても、「私の學校では、こんな絹布など、誰れも着ないから」と申しますのです。

宗教を土臺として御座いますから、精神修養の點など、よほど、進んで居るやうに思はれます。その上普通科を終りましてから、更に進んで勉強したい人

の爲めには、高等科が御座いまして、誠に都合がよいと存じます。

行き届いた學校

某高等官

女子教育の方針は、よほど考へ物ですね。快活にはき／＼として居る事は、至極よいけれども、それが過ぎて、あんまり跳ねかへられては厄介ですね日本婦人の從來の美點を、あくまでも、尊重して之れを損じないやうに、そして、よく文明の智識を消化せしむる事が、最大切でせう。

私の娘は、成女高等女學校へ入學させました。同校長の宮田さんが、大層熱心な方で、校風が、至極質實で、今樣の輕浮な處が少しもない、のみならず教授が、非常に、よくゆき届いて居るといふ事を聞いて、甚だたのもしく思うて、入學させたのです。

私は、まづ、放任主義の方で、學科の方は、學校に任せて、自覺心のおこるまで、別に、勉強を強いま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せんが、まあ、どうかかうか、やつて居るやうです
入學前に聞いた譯は、過稱ではないやうです。至極、眞面目で、衣服なども質素なものです。

幼時の宗教教育

日曜學校について

井深夫人

宗教教育は子供の時から確に大切で御座います。子供の時からでなく、母親の胎内から既に大切なものと存じます。實に宗教教育は、靈魂をもつた人間に離るべからざるもので御座います。

家庭で幼時から宗教教育に注意いたします上に、相當な年齢に達しますと、日曜學校に出しますのは誠によい事と存じます。然し私は只今の日曜學校に大分慊らず思ふ事があるので御座います。只今の小學校はよほど進んでまゐりまして、凡べて秩序的に子供の腦力の發達をはかり、且つ規律も正しくて、お行儀なども、大層よろしう御座いますのに、日曜學校ではあまりむづかしい事を教へ過ぎて、子供を理屈つぽくしたり、規律がなくて、お行儀がわるいといふやうな事がないかと思はれるので御座います十歳ばかりの子供に英雄論などを皷吹いたしますのはどうありませうか、尤も勝れた人格を、よく子供にわかるやうに紹介することは申すまでもなく大切なことで御座いますが、あまり高遠な理論などを聞かせて、生氣意な子供を作らないやうに、なるべく秩序的の教育をいたしたいと思ふので御座います。そして子供らしい天眞爛熳な、可愛い、尊い所を失はせたくないと存じます。そして今少し規律をたてゝ、禮儀といふ事に重きをおいて行儀作法が亂れぬやうにいたしたいと存じます。自由といふ事は、自分の思ふまゝをふるまふ放埒の意ではなくて、良心の命に從順に自由に從ふ事の出來るのをいふのであらうと存じます。そして容易に善に進む事の出來る人を自由の人と申しますのでせう。ですから或る程度ま

で規律を重んじて、克己といふ事を敎へるのは、大切な事と存じます。やゝもすれば此の自由といふ事を考へ違へて、日曜學校などでは（一般にさうとは申せますまいが、私の見ました處では）不規律に流れる傾きがあるやうに見受けられますのです。

是等の點を改めますには、日曜學校の敎員養成といふ事が最大急務と存じます。私は日曜學校の先生にはなるべく子供の敎育に經驗のある小學校の先生とか、幼稚園の姆母とか云ふやうな方になつておもらひしたいと存じます。更に進んで現に父母となつて居らるゝ方が敎へられたならば一層結構なことゝ存じます。

家庭雜感

某夫人

拜啓毎號有益なる御教訓に接し感謝罷在候貴誌は家庭の友と共に私の無二の益友にて、小供の添乳の寸暇が私の勉強時間に候。二月號の家庭欄は大なる感興を以て拜讀いたし候、遂に別紙になる經驗をかき記し候へども、筆とるわざに馴れぬ身は、思の程を充分に表白いたしかれ、徒に山烏尾的の筆のあとお恥かしく候。あはれ御察しの上よしなに御取捨被下、貴誌の餘白を汚し得候はゞこよなき幸福に候。御事業の上に神の御祝福常に裕かなれと祈上候

二白良人の許可を得候得共、姓名だけは御記し被下間敷願上候

△小兒の恐怖心

私は今二男一女の母でありますが、長男誕生の折に、どうか神の恩寵の裡に强健に成長いたして、主の御用に立ち得る樣にとの願望をもて、心を合せてひたすら光明の方面をのみ示しつゝ養育してまゐりました。丁度三才の春餘儀なく他人と暫時同居いたしましたが、其家には二歳年長の女子の遊相手がありまして、一日何心なく恐い眞似をしてみせました。恐いといふことを始めて見聞した私の小供には好奇心を以て注意して居りましたが、此一回の印象が遂に拭ひ去ることが出來なくなりましたのは返す〴〵も殘念で堪りません。其後骨は折れますが其子の親がたの承諾を得て自分の小供同樣の敎育上の注意を致して居りましたが、其結果としてよい經驗

を與へられました。
其後不幸にも宅の前の師範學校から二回失火がありました。何れも夜分でしたから大混雜の中に小供を避難せしめました。其時に生じた恐怖心は甚しき影響を與へまして、神經過敏となり、爾後は半鐘の音にも火事の叫にも、直ぐ心配そうに泣顏をして震ひ出すといふ樣になりました。淸敎徒風に又基督敎的武士風の敎育をと心掛けました良人は、心を痛めて其都度悲しき思を致します。最初祈り求めた願望が斯樣に砕かれ終るとは何か私共の思ひ及はぬ邊に神の御旨のあることかしらと時々語り合て居ります

△親の苦痛

二男長女の體育其他につきましては、貧しき境遇且つ人手なき家庭、心に任ぬ事が多くありましたが、其都度々相當の御指導を受けて今日に及びました。愈昨年長男が學齡に達しましたから、師範學校の附屬小學へ願ふことにいたしました。入學の當日主任の先生が何か家庭よりの注意と希望があるなら申出る樣にとありました故、前述の恐怖心に就ての苦心と、私共は基督敎徒として宗敎々育を施して居りますから其點を含んで貰ふ樣依賴いたしました。其後注意致して居りますに敎授其他の點は私共も滿足ですが、海老名樣の仰の如き縣社とか氏神の祭禮に生徒一同參拜いたすなど、地方學校に遁れ難き宗敎的行事のありまして、小き淸き心に異樣の感を抱かしむると見えて、思掛ぬ質問に出遇ふ事があります。斯る矛盾せる敎育を餘儀なくせらるゝ親の苦痛は皆樣も御同樣と御察し申します。

△信仰の衝突

尙一つ近く感じて居りますこと、是は自分の家庭の樣を申す樣でお耻しき次第ですが、御經驗ある方の御說も承り度存じます。今度久々にて暫時歸省いたすことゝなりまして、半年斗田園生活をいたして居ります。良人は不在の事にもあり、私は主婦として萬事に當りますが、里歸りといふ境遇であります御承知の通り從來の習慣ある家庭に歸りましては、

自分共の理想との衝突を避けねばなりませぬ、而かも出來る丈け新家庭の主義を實行する樣にと苦心して居りますが、兩親や祖母が朝夕神佛に奉仕する樣子が無邪氣な小供にはおもしろく、燈明や線香、鈴や鐘の音が皆彼等の好奇心を引起さしむるのであります。正月の某日祖母が熱心に佛前に合掌禮拜して居ります間に、後に立て笑ふたとかいふので流石の人よしの祖母も立腹いたしました。家庭に斯ることを見し事なき私、三十年の今日自分の不行屆とは申ながら、そゞろ悲しくありましたから陰の座敷にて小供にはよく申含めましだが、是が世に所謂信仰の衝突の端緒となるのでありましよう今年の元旦の決心は家族を信仰に導くといふ責任でありましたが、一層其急を感じました。

△家族禮拜

家族禮拜は海老名樣の仰の通であります。赤坊の時膝の上にて養はれし習慣で二十分位の禮拜時間は少しも小供の重荷ともならず、又兒童の心理狀態に惡影響がないのみか、美しき性格を作る要素と信じます祈禱なしに床を離れず、箸をとらず家拜なしに遊に參らず就眠の祈に姿を直す樣はいかにも可愛らしく家庭の裡に天國を實現にするのは小供との祈禱の光景であると存じます。若し誇るべくんば私共クリスチャンが宗教的に養成せらるゝ小供を持つといふことではありますまいか。

子女教育に對する母の務（其十三）

海老名みや

△手藝の練習

近比幼年兒童教育に手工科を設け、幼稚園より續いて紙の折物や豆細工、粘土細工、竹細工、其他樣々のことを敎へられますが、之れは誠によい事であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ると思ひます。チョット考へますと學問を爲すべき貴重の時間を費して、こんな遊び半分のことを小供にさせますのはつまらないことの樣に思はれますが仲々にそうでなからうと思ひます。小供の時に手藝の敎育を致しますのは、一つは手先の練習を爲し、一つは智識を樣々の方面に應用することを實習せしむることになると思ひます。そしてこれは學校で敎へる許りでなく、家庭で一層注意をしなけはばならないことだと思ひます。私もこの事は前から考へてをりまして、どうか我子にそ

れを實行して試めしてみたいと希望してをりますが、さて希望と實行とは伴ひ難いもので思ふ樣には參りませぬが、其希望は今も尚持つて居りまして、ある程度までは必ず實現せられやうと信じて居ます。敎育とは學校でおそはつたことを、悉く忘れて仕舞つたあとに、殘つた處のものを云ふのであると或敎育家が云はれたといふことを承りましたが、實に味ある面白い言葉で、慥かに眞理だと考へます。例へば昔數學を學んだと致しましやう、十年二十年とたつ間にだん／＼忘れて仕舞つて、今こゝに幾何や代數の問題を出されましても、さつぱり解すのことは出來ますまい。恐らく極短簡な問題でも一寸分らないかも知れまゝぬ。それでは昔學校で數學を學んだのは全く無失であつたかと申しますと、決してそうではありませぬ。數學其ものとしては其形を見ることは出來ませぬが、或は他の學問の上に、又は日常生活の中に樣々の場合に活用されて居るのであります。これを今技藝の上に照して考へて見てもまことに面白うございます。

△音曲の稽古

例へばこゝに一人の婦人がありまして、幼年の比から琴の稽古を致しました。十三四歳にして一通り其技も熟達しました比或は家事の事情か學科の都合で、すつかり稽古を止めまして、おさらひすら致しませんで、打すてゝ仕舞つたと致しましやう。二十年三十年の後折あつて琴に向つて見ましたならば、昔面白く掻鳴らした六ケ敷曲は申までもなく、極手ほどきの一節すら見事忘れはてゝ居るでございましやう。けれども一度其手が糸にふるゝや幾十年が間あはざりし親しき舊友にでも出會ひし樣な心地して不思儀や其調子は明瞭に、又何々の曲は忘れても妙なる音色丈は出すことが出來ます。故に僅か數日又數ケ月師に就て忘れた手の連續や曲の歌を稽古致しますと忽ち元に戻るのみならず、其技は却てやめた比よりも上達して居るかと思はれる程であります。乃ち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其曲に就ての記臆はなくなつて居ましても、其技は依然として殘つて居るのであります。音曲の稽古は其樂譜の記臆でなくして技の練習であることを思はねばなりませぬ。そして其練習は手の柔らかい中に氣長に繰返し〲やるのにかぎります。幼い中に樂しみ半分にお稽古して、片つ端から忘れてもかまひませぬ。一つでも二つでも其時〲覺えたものを精出してお彈きなさい。かうして其技さへ熟して來ますと、年比になつて、僅かの月日を費しまして面白い曲の幾つかを稽古致します時には、苦もなく六ケしい手を覺えられて、自在に彈くことが出來やうと思ひます。專門家としてのお稽古の仕方は別として普通一通り、女子の嗜として自らも樂しみ人をも樂しましむるまでの成功は幼年時代母の注意によつて左まで多くの時間を費さないで出來やふのと思ひます。忘れ果てゝ其あとに殘る處の其技に重きを置て其練習を主眼するのが大切だと思ひます。次は女子の大事の手藝であつて、女子の唯一の業としてある處の裁縫に付て申上て見ましやう。

▽裁縫の稽古

近比此裁縫の教授法は非常に進步致しまして、何もかも算術で割出して、キチンと子供の頭に這入る樣に敎へられますのは誠に結構なことだと思ひますかくして高等女學校卒業の比までには普通一通り差支へなきまでには出來上る筈でありますのに、今日の花嫁樣には、內の嫁はお仕事が出來なくて困りますとお姑樣のお小言を聞くのは何故でございましやう。實際お仕事のお出來にならない方が、多數おありになる樣であります。甚だしいのは、裁縫專門學校卒業の方で、小學校や高等女學校では立派に教授の出來る方が、實物を手にせられては、思ひの外其技の拙ないのを見受けますが、その理由は智識と技とが伴はないのだらうと思はれます。羽織の衿はかう、つまは斯樣にと其方法を悉皆知りましても、手に實物を取つて見れば仲々理屈通りになりませぬ。し

て見ると實際にかけては殆ど無能と申事になつて仕舞ます。これでは實際困つたものだから女子教育などは大嫌ひだ、家を治めるのに書物が何になる。家内中ボロを下げさせる様な學校の教育はこり〳〵だと田舍なぞでは女子教育や學校攻撃が始ります。これは由々敷大事で裁縫位の爲に大切な女子教育に迄影響を及ぼすなどは以ての外のことゝ思ひます。かく申て私は裁縫を等閑にすると云ふ意味ではありませぬ。苟も家政の仕に當るものが裁縫に熟達することの必要は申までもありませぬが、裁縫といふものは學問の時期を短かめてまでも其貴重な時期の大部分を費さなければ出來ない程な六ケしいものでありましようか。又これは學校に全部要求すべきものであるかも考へものでです。で、私は此事に付ては衆て考へまして又多少實驗して見て、先づ斯様な風にやつたならば女子教育攻撃もなく學校も非難されずそして第一本人が其技に熟練するの幸を得るであらうかと思ふことを無遠慮に申てみましやう。先づ、

裁縫は七分家庭の任三分學校の任と致し度と思ひますと申ますのは、大抵の小供は針を持て何かこしらへて見たりするとは好きなもので、母親の側でうるさい程したがるものです。それを母親がまあ、うるさいと叱りませんで、少し面倒を見てやりますと、段々裁縫の趣味が出來て參りまして、ヤレ人形の着物だ、お蒲團だ、お巾ちやだ、お手玉だとさま〴〵のものを下手ながらこしらへてをります。その間にいつしか運針が出來て參りますで雜作なく何かゞ出來ますので益々面白くなつて遊ぶ時間にも夢中になつて致します。無論毎日さう長い時間を費すと申のではありませぬ三十分もやれば澤山だと思ひます年齢と共に段々技も巧者になりまして、十二三にもなります比には、自分のお襦袢、單衣物位は譯なく縫る様になりそうなものだと思ひます。そして夏のお休みなどには母親が相手になつて奇麗な小切でハギものをしたり、よい切で臂つきの様なものでもこしらへたりする中に、何時の間にか絹ものゝあつかひ

も聊か手に馴て參ります。運針と切のあつかひが出來る樣になればそれを大きなものに應用する時は割合旨く行くものです。一つ身の着物には身ごろと衽とゑりと袖とあつて衿はかうしておつけなさい。えりはかようにと先生が敎へて下さる時に、人形の着物で、大てい覺えてをりますから、大へんはやく呑込めます。かういふ工合にして、學校では理屈と方法とを敎へて頂きまして、家庭では樂み半分のやうなものによつて其技を練習致しますならば、高等女學校卒業迄には、必ず一通り、不自由ないまでに、上達するであらうと思ひます。あとは平常の心がけ一つで、どこまでも進歩發達するものであります。敎育あるものは、必ず其技の熟達も速かなるは、理の當然でありますから、昔の人が大ごとをして、澤山の時間をかけて爲したことを現代の女子は片手間に爲しとげるといふ位のことは出來べきことだと思ひます。しかしこれはひとへに幼年時代に於ける母親の注意の如何にあることで、若し其注意一つで問題の解決を見ることが出來ましたならば、學校も非難を免かれ、又女の學問はいらないものだなどいふ樣な頑固な聲は聞かなくなるであらうと思ひます。

雛の影桃の影壁に重なりぬ　子規
倒れ雛誰が無體の懸想かな　櫻魂子
向き／＼に花笠雛の手振かな　碧梧桐
死んだ子を思出す草や雛祭　稻青
あたら雛身を失ひ給ひけり　百里庵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

若き時の奮勵

安井哲

世の中が非常に忙しくなつて來ましたので、男子は殆終日外に働き、又は旅行や出張などで、數日間も不在となり、或は又遠く海外に漫遊して數年間も留守にする事があります。從つて之れを助け、之れを慰め、又留守中の全責任を負つて立つ婦人は、余程の覺悟がなければなりません。朝から晩まで働いて疲れて歸る夫は如何に慰めねばならぬか、又留守中家事一切を引受けて不都合なく處置して行くには如何にするか、又兒童を指導して學校教育の基礎を造るにはどうするか。又子供の爲めに如何なる學校を選ぶべきか等、其責任は中々重大であります。かく忙しい且重い責任なる生活をなさうとするには青年の時期に於て、充分此練習をせねばなりません

然るに私の實驗に依りますと、學問をしたり又は仕事をするのに、若い人々は一般に熱心が足らぬ樣に見ゑます。卽有りだけの力を出して居らぬやうに見えます。中には女學校卒業後、遙々東京に來て、裁縫とか料理とかを學んで居る人々などは、結婚前であるから今一層奮發して、多忙な家事を手傳ひ一生懸命に實地練習をせねばなりませんのに、特に先生から責められぬため、日々僅の時間是等の手技を學習し、其他の時間は空しく過ごして居る人々も見受けますが、是等は女子自身の不心得といふよりも寧ろ其母親の責任であります。

人間は誰でも一生懸命に働いて、お互に出來るだけ他人の幸福利益を圖らなければなりません。併此精神と實際の活動とは、急に出來る者ではなく、若い時代から次第に訓練されなければなりません。殊

に忙しい仕事をやり通すには、仕事の順序も定めねばならず、仕事のやり方も考へねばならず、成るべく少い時間に、成るべく僅な勞力で、多くの仕事を充分にやり遂げねばならぬので、之れには余程練習された脳を有つて居らねば出來ません。

事務的に事を處置するといふ事は、必しも公職に從事する人とか、商業に從事する人などのみに必要ではありません。家事一切の處置にも缺くべからざる事であります。然るに吾々婦人の欠點は、精神の訓練が不足であるために、先全力を注いで與へられた仕事を完全にやり遂げやうといふ覺悟を缺き、次に如何に之れを爲すかといふ良法を案出する力を缺いて居ります。其故に年も若く、體力も強く、又元氣もある青年の女子方は、將來一家を支配する時の準備として、出來るだけ學びもし、働きもなさい。義務的に學習するのみで、其余暇を無益に費すのは決して好ましい事ではありません。少しも苦しまず に賢くなり、又正しい人となれる筈はありません。若い時に苦しむ程、又忙しく暮す程、將來獨立の生活を爲す場合の助となるのであります。

思出の一節

海老名みや

母様こんなに澤山山路の薹がありました。カアヤンが死でしまつてつまりませんねへ。遣ることが出來なくつて、とさも〳〵つまらなさゝうに四つ五つの山路の薹を取つて來て雄二が申ました。ほんにさうですねへ。今に木の芽や韮が出て來ても、おばあさんにあげる樂みがなくなりましたと、かつもしみじみ申ました。皆様此カアヤンなるものは、誰であるかといふことは、前號徳富氏に委敷記されまして、能御承知でございましよう。京都から、大阪から、神戸から、手紙が來る毎に、其末に壽賀さんがなくなられて東京へ參つても樂みの一部がなくなりましたと申て參ます。あゝ彼の八十五年の長い生涯には

多くの懐かしい友を作りました。きかん氣で、氣澤山で、思つた事は何處迄もやり通すといふ勝ち氣な彼は、飽まで深切で御世話焼でした。誰の世話も深切にしました、がわけて自分が預つた子供の世話は誰でも迚も眞似の出來ない程に勞を惜まず親切に致しました。まあ手近い處の私の小い時分のことを一二追想して見ましやう。

私が七八つの比、お琴の稽古を始めた比のことだと思ひます。朝未だ薄暗い比暖かい夜具の中から私を抱へ出して、ぬれ手拭で顔を、拭てくれましてすぐ着物を着せ、用意しておいたおめざを自分の袂に入れ夢現の私を負ぶつて出かけます。三四丁も行た比やつと、はつきり目が覺めますと前のお目ざを一つ口に入れてくれます。そして彼是十丁もある琴の先生の處に參りまして、朝稽古を濟まして又負つて歸へりますと、丁度朝御飯の比です。かう云ふことが時には十日も十五日も續くことがありますと、祖母などは可愛相に子供を、あんなにしないでもと

小言を申されます、主人に小言をいはれて迄も、子供に稽古ごとをさせ度一心で、そんな骨折をするとは能く〲の親切ものでなければ出來ませぬ。少し大きくなりましてからのことですが、學校の試驗前などは、朝暗い中に起してくれます、寒い時であるとちやんと火鉢に火を入れて、ランプを點けて、手ごしらへのパン菓子か何かを用意しておいて起してくれます。それで自分はねむたいとも、疲れたとも只の一言も云つたことはありませぬ。只私どもがそうして勉强するのが嬉しいのです。といふものは亡き父に對する忠義の一念、何でも其遺子等を、立派に育て上ケ度ばかりに、苦るしい、つらいも忘れて居るのでしやう。其眞似の出來る人は容易になからうと思ひます。

私が十六七歳の頃大病に懸つことがあります。殆ど半年にも及ぶ長煩らひで一時は醫者も手をはなした程でありましたが、其時の壽賀の心盡しの介抱は今思つても、涙が出る程です。滋養が大切だとい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へば、所有方法を以て滋養を進めるといふ風に、たとへばとろゝがたべたいと申ますと、普通松魚節の出しでのばす處を鷄肉や牛肉のスープでのばして、一口でも滋養を多く與へる樣にとの心入、其魂膽普通の人のとても思ひ及ばぬ程であります。何でも、よいといふことに、どうでもしてそれを實行するといふ其精神の强さ。尚一例を申てみましやうならば子供に冷水摩擦をしてやると、風を引ぬといふことを聞ますと、早速それを私の甥と姪の二人の子供に實行いたしました。二人とも、少しひ弱で、それは〳〵壽賀の丹靑で育ちましたが、その三四歲の比から、每朝々々一日も休まず十歲前後までし續けました。思ひ出しても淚がこぼれますは、彼がもう全く失明致しましてからの事です。二人の子供が目覺ます前に手探りて湯殿へ參つて、手拭をしぼつてまつて居ます。目覺めますと裸體の子供を膝に抱きあげ、胸から背足までぬれ手拭でふきまして、その後をからぶきしてやります。それを決して人手に任せませぬ。私は其樣子を見る每に、いぢらしさに眼を閉ぢました。あゝ何といふ親切でしやう。彼自身も一度冷水浴の効能をきいた以來、八十幾歲になるまで、一朝も怠つたことがなかつたと申ますが、其意志の强かつたこともこの一事で分ると思ひます。思ひ起せば種々のこと書ても〳〵盡きなからうと思ひます。

編輯局より

▲二月は二十八日でおしまひですから、編輯の方も大分いそがしう御座いました、それに活版屋や其他の手違ひから、編輯者の豫定もくるひました事は誠に殘念で御座います。

▲去月十一日上州前橋市で社の講演會を開き、本社からは、海老名主幹安井主筆、海老名夫人及和田信次君がまゐりました、聞く處によれば非常な盛會で、主幹主筆始め大喜びで御座います。これも野口先生御夫婦初め前橋敎會の婦人會の御働きの結果によります事で誠に難有御禮を申します。此會の爲め、同地方に吾等の御友達が多數増加致した事は吾等の心強く感じまする處で、共に手を携ゐて吾等の道を行く事を喜ぶ次第で御座います。

▲前號に於て子供の宗敎敎育に就て御紹介申しました處、方々から種々の御感想をお送りドさいまして、吾等の企が無益でなかつた事を知り、且つ讀者諸姉の御親切を感謝する次第で御座います。

▲本號には學校の撰擇てふ事に就いて諸名士の御意見を掲げました、只講演會やら何やらで編輯局全部が多忙であつた爲め、多方面の方々の御話を聞く暇が御座いませんでしたのは、誠に物足らぬ心地が致しますが向先生初め皆々記者を御引接下さいまして、親しく御物語下さいました事に對し深く御禮を申上げます。

▲德富健次郎先生は本號にも御執筆下さる筈で御座いましたが其材料が四月號に適して居るから次號に出したいといふ御端書がまゐりました。今日に於て何にも申し上げない方が却つて皆樣の御樂しみになる事と思ひますから、内容の説明は致さないで置きます。成女高等女學校長宮田脩先生の「女子解放論」も來月號に掲載致す都合で御座います。

▲安井主筆は官命で今月初めより一週間程關西地方に旅行する筈で御座います。

▲原稿は麹町區飯田町六ノ二十一大塚倚宛御郵送を願ひます。

本誌定價　一部金拾五錢(郵税ナシ)◎半年六部前金八十五錢(郵税ナシ)◎一ヶ年十二部前金壹圓六拾五錢(郵税ナシ)分

外國行定價　壹部金拾八錢(郵税ナシ)◎六部半年分前金壹圓(郵税ナシ)一ヶ年分前金貳圓(郵税ナシ)

廣告料

一行廿三字詰	四分の一頁	半頁	一頁	内表紙十五圓
金廿五錢	金四圓	金六圓	金十圓	外表紙貳拾圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候
●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●振替口座にて御送金の時は手數料壹錢必ずそへらるゝこと
●郵劵代用は一割増の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京小石川林町四十三番地
新人社事務所
(振替貯金口座一四五〇〇)

明治四十四年二月二十八日印刷
明治四十四年三月一日發行

東京市小石川區林町四十三番地
發行兼編輯人　海老名彈正
東京市小石川區小日向臺町二ノ廿六
印刷人　相原一郎介
東京府下北豐島郡巣鴨村字巣鴨六百六十一番地
發行所　新人社
東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所　齋藤活版所

驚く可き低價

請求せよ
内容見本無代進呈

東京女學舘教師 國府操子著

▲總紙數壹千五百頁

(最新刊)

家庭日用 婦女寶鑑

國家の完備は家庭の完備に待つ、今や我國は一躍して世界一等國の列に入れり、從つて家庭の健全なる發達は急務中の急務なり、女子教育家として令名高き國分操子女史茲に感ずる所あり、二十年來の實驗と蘊蓄とを發揮して此書を世に公にせらる

國體皇室、教育、女禮式、家政、育兒、衛生、才媛、讀書烈女傳、文章、和歌、書畫、音樂、手藝、和服裁縫編物刺繡造花袋物お細工物摘み細工茶湯、生花、料理、工藝等中等社會以上の女子に缺くべからざる事は一切網羅せざる無く猶坂正臣先生の和歌及び手紙の書き方をも加へたり、以て文明の家庭必須の智識を得べく、以て女子の人格を養ふべく、實用にして而かも趣味あり既婚と未婚とを問はず一般の女子に取りて、師となり友となり、實益を得るのみならず精神を慰籍するに足るべく、實に方今の家庭一日も缺くべからざる實用婦女百科辭典なり殊に装釘の如きも高尚美麗にして贈物とするにも適し、婦女寶鑑の名に負かざる絶好の一大述なり。

和裝帙入極美麗 全三冊
用紙最上改良半紙印刷鮮明
正價五圓五拾錢挿畫五百圖

特賣部數盡きれば斷じて此の特價を以て販賣せず

五千部 衛生 特價四圓 (郵税内地金拾六錢)

特賣部數極く少數故一時も早く機敏に購求あれ

東京日本橋角 大倉書店發行

振替口座東京二三八番
電話本局二四〇四番
電話本局四一四四番

最も貴重なる智識を最も單純に意得し得るは本會の有する最大特色也

女子手藝講義錄

普通科
高等科
一ケ年
終了

會員募集

手藝の素養なき婦人は文明の婦人たる資格を有せざる人なり

少額の費を以て家庭に最も有効なる手藝の最新智識を完全に修得せしむる本會の講義錄也講師は斯道の大家四十名世界の技術と最新の流行と最新の考案を最新式の説明法を以て簡易に講述す

共立女子職業學校
櫻友會内手藝普及會編

社交上精神上家政上の成効を希望する婦女子は速に入會せよ

無料進呈 入會規程 内容見本

圖解入（毎號石版彩色木版數十個入）

質疑 會員の質問は最も丁寧に應答を示す

會費

普通科		高等科	
一ケ月	金參拾錢	壹ケ月	金參拾五錢
半ケ年	金壹圓七拾錢	半ケ年	金壹圓九拾九錢
壹ケ年	金參圓貳拾四錢	貳ケ年	金參圓七拾八錢

入會申込所
東京日本橋 大倉書店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本輸入品に限り包装紙に斜に「アイボリー石鹸」と記入し一見模造悪質石鹸と判別に容易ならしむ御購求の節「アイボリー石鹸」に御注意を乞ふ

▲合本出來▼

新人　第十一卷　代價送料共　金一圓三十錢

新女界　第二卷　同　金一圓

裝釘堅牢優美永久保存に絶好也

新人第拾貳卷第參號目次

（三月一日發行）

國民道德の進化……海老名彈正
弱者の宗教强者の宗教……海老名彈正
國民道德基礎問題……成瀨仁藏・井上哲二郎
敎會大合同論……內ケ崎作三郎
近時の基督敎觀……津荷環山
基督抹殺論を駁す……額賀鹿之助
ベアトリチユの性格に就て……佐藤清
岡山の八年間……藤田鈍物
馬可傳講義……海老名彈正
滯獨日記……吉野作造
神秘を求むるの聲……和田孤峰
自然主義者の進む可き道……森脇毅

發行所　東京小石川區林町四三　新人社事務所
（振替口座一四〇〇五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人道鼓吹

人道講話

修養雑誌

第十四號三月一日發行

講話主題 **誠の研究** 文學博士 村上専精

一、寶の研究……（第十三號）

二、誠とは何ぞや（未完）（第十四號）（中庸に就きて誠の根本義を定む）

◎村上博士感話

▲明治四十四年一月一日の感（第十三號）

▲西有穆山師幷に重野博士の二先輩に就きての感（第十四號）

▲雨宮敬次郎君幷に島地默雷上人の最後に就きての感（第十四號）

◎雑録

◎余が六十一年間の夢物語……村上先生談

●●蒲生君平先生曾氏の墓を毆つ

●●賴山陽先生芳野の花下に今様を作る

●其他先賢古徳の面影を描出して興味涌くが如き記事滿載す

初號以下全部取揃あり
總目次十二號に掲載す

入會の手續

一、人道講話會は教育道徳及宗教に關する講話を直接又は通信に依つて聽かんと欲する者を以つて組織す。

一、本會は文學博士村上専精先生を推戴して會長とし其他幹事一名事務員若干名を置く。

一、本會は本會の目的を達せんがため毎月一回講話會を開き雑誌『人道講話』を發行す。

一、本會は何人をも選ばす入會を許す。

一、本會に入會志望の者は、住所姓名を明記し、一箇年以上の會費を添へ本會本部に申込むべし但し會費一ケ月金五錢一ケ年金六拾錢とす。

一、本會々員には、毎月一回雑誌『人道講話』を無代にて配賦す。

以上

見本 金六錢但し五厘切手に限る

發行所 東京小石川區丸山町 振替東京二〇三二四 人道講話會

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需、

松田、林、峰岡三副長ハ目下當院ニ在勤、

電本 八八八番（病院用）
八九八番（私宅用）

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱、従停車場半里

電 チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、

院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十四年三月一日發行第參卷第參號

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN